

水納島・多良間島における石碑・記念碑等の調査報告

崎原 恭子*・宮城 修**

Investigation report on stone monuments in Minna Island and Tarama Island

Kyoko SAKIHARA*, Osamu MIYAGI**

はじめに

本稿は、沖縄県立博物館・美術館（博物館班）による総合調査事業に基づいて実施した「宮古諸島総合調査」の内、多良間村域の水納島と多良間島を対象にした歴史分野の調査報告である。

多良間村は宮古島と石垣島のおおよそ中間に位置しており、水納島と多良間島の2島からなっている。村役場や小学校・中学校等の施設のある多良間島が村の中心である。多良間島は南北約4.5km、東西約6kmの楕円形で、隆起サンゴ礁により形成された島である（注1）。島の北側に集落があり、南北の道路で行政区域（字）が分かれ、西側に字仲筋、東側に字塩川が位置している。集落内は碁盤目状の道路が整備され、フクギ等の抱護林で囲まれている様子がうかがえる。集落よりも北西側が小高くなっており、島内で最も高い場所は八重山遠見台の標高34mである（注2）。集落の南側はおおよそ平坦地が多く、主に農地や牧場として利用されている。島内の一周道路があり、海岸につながるトゥブリ（小道）がいくつも点在している。一方の水納島は、多良間島の北側約10km先にある隆起サンゴ礁により形成されたほぼ平坦な島（注3）で、行政区域は字水納のみである。かつて島の東方や北寄りにまとまっていた集落が南側に移り、1961（昭和36）年に多くの世帯が宮古島へ移住した後島民が減少し、

近年は数人のみが居住している。

多良間島では、毎年旧暦の8月8日を初日として仲筋と塩川の両字で「八月踊り」が催されている。これは「多良間の豊年祭」として1976（昭和51）年に国の重要無形民俗文化財に指定されており、長く継承されている大きな年中行事である（注4）。また2011（平成23）年には、亜熱帯の優れた風致景観と生物多様性豊かな自然環境を有していることから、多良間村の陸域及び周辺海域について「多良間県立自然公園」の指定を受けた（注5）。さらに両島に県もしくは村指定の植物群落等の天然記念物もあり、豊かな自然が保たれている村である。

調査の目的

当館が実施している沖縄県の島々に関する総合調査は1980（昭和55）年から行われており、本調査同様の石碑や記念碑等（以下、記念碑等という）の現状調査は、2009（平成21）年以降、竹富町域の竹富島・鳩間島・黒島・新城島と伊平屋村域の伊平屋島・野甫島の6島で行われた。

記念碑等には建立された目的があり、記載された事柄は記録として後世に伝える役割を持つ重要な歴史資料である。記念碑等の調査により、住民による地域の歴史・文化等の継承の営みをうかがうことが可能である。上記の島々は行政区域として離れてお

* 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3-1-1 沖縄県立博物館・美術館
Okinawa Prefectural Museum and Art Museum, 3-1-1, Omoromachi, Naha city, Okinawa, 900-0006, Japan.

** 〒904-2214 沖縄県うるま市安慶名2-18-37 うるま市立あげな中学校
Uruma Municipal Agena Junior High School, 2-18-37, Agena, Uruma city, Okinawa, 904-2214, Japan.

り規模も異なっているが、共通した調査を行うことで記念碑等からみた県内の島々の特徴を考える材料としたい。なお原則、石や金属に文章等が刻まれているもしくは記載されているものを対象とした。

今回の調査は多良間村域の水納島と多良間島に現存するすべての記念碑等の現況を把握することを目的とした。ただし水納島では、滞在時間の制約がありすべてを調査することができなかったが、寄せられた情報も追記した。また拝所の鳥居や灯籠は石碑や記念碑といえないが、奉納年や奉納者が刻まれている場合があることから、悉皆調査を開始した竹富島調査から対象としているため、今回も対象に含めた。

調査項目は、これまでの調査と同様に設置場所の把握、法量測定、銘文の確認及び書き起こし等に限った。個々の記念碑等の確認については万全を期したつもりだが、調査漏れや誤記等がある場合、一切の責任は調査者にある。なお文献調査等による建立年や歴史的な経緯等の記述については、確認できる範囲に限った。

本調査においては、次の方々にお世話になった。記して感謝申し上げます（氏名五十音順、職名等のご協力いただいた当時のもの）（注6）。

多良間村立中学校 教頭 座間味浩二氏
多良間村教育委員会 社会教育主事 桃原薫氏
同上 村立図書館補助員 桃原光盛氏

また本報告をまとめるに当たって、当館の田名真之前館長より、銘文中の読み方が不明な数文字について御教示を得た。記して感謝の意を表します。

調査の方法

調査は主に現地踏査を実施し、1件ずつ調査シートに記入していく方法をとった。現地で行った調査日は以下のとおりである。

2024（令和6）年1月17日～20日
多良間島：宮城修、崎原恭子
2024（令和6）年6月26日～29日
水納島・多良間島：崎原恭子

その他、2019（令和元）年6月25日～27日に、外間一先（当時博物館班主任学芸員、歴史分野（近現代担当））による多良間島内の事前調査、2025（令和7）年1月23日・24日には、当館の移動展in多良間村の準備期間の合間に崎原で多良間島内の補足調査を実施した。また宮古島市立図書館や沖縄県立図書館等で関連文献調査を実施した。

本調査の結果、後掲の水納島・多良間島記念碑等集成にまとめたとおり、全105件の記念碑等を確認してデータを収集した。

石碑・記念碑等の記録と分布状況

[水納島]

先にも触れたとおり、水納島での調査は時間的制約があったことから部分的な調査に留まった。その中でも、水納港と水納小中学校跡地、島内の指定文化財の内、水納遠見（宮古遠見）・水納御嶽・水納島の鳥塚に行くことができた。中でも村指定史跡である水納御嶽では4件記録した。ここは島内の年中行事が行われる場所であり、島民の厚い信仰を集めている場所である（注7）。敷地内には、1936～1937年の神社改築及び鳥居建設の記念碑と、1997年の水納御嶽の改築による記念碑があり、長く大切にされている場所であることがうかがえた。同じく村指定史跡の水納島の鳥塚は、島の北東側の防潮林中にあり、百合若伝説にまつわる塚が置かれているが、文字を確認することはできなかった（注8）。また小中学校跡地にある鉄棒には、コンクリートの柱に「六十周年記念」と刻まれていることから、水納文教場が設置された1900（明治33）年から60年目の1960（昭和35）年に建てられた可能性がある（注9）。その他、村指定天然記念物「水納島パナリのミズガンピ」に村指定の標柱があること、島内のコンクリート製の井戸にも銘文が刻まれている情報を得たが、調査することができなかった（注10）。

[多良間島]

多良間島の記念碑等のほとんどは、集落内に集中していた。ただし集落内外ともに、史跡や御嶽、役場や学校等の施設等、多良間島の象徴的な場所に設置される傾向があった。この内、史跡や御嶽、天然

記念物等の文化財を示す標柱は、ほとんどが1974年（18件）もしくは1983年（9件）に建立されたものだった。特に1974年には県指定文化財モデル地区となったこともあって、相次いで県や村の文化財を指定するとともに、冊子『多良間村の文化財』も発行された。『多良間村史』P.316には、「この年はまさに多良間村文化財行政の高潮期ともいえるであろう。」と記載されている（注11）。

また村役場や小学校、中学校、慰霊之塔、八重山遠見台公園の敷地には記念碑等が5件以上あり、集中している状況も確認した。なお記念碑等の建立は、多良間村や岩手県のように行政主体のものが多く傾向だった（注12）が、島外の個人（多良間シュンカニ歌碑関連3件、慰霊之塔敷地内の灯籠や獅子像、銅鐘4件、多良間小学校の創立50周年記念碑1件等）や沖縄島や宮古島、石垣島にある多良間の郷友会（父母の碑及び歌碑2件、多良間村制80周年・新庁舎落成記念、多良間小学校の創立百周年記念碑各1件等）が関わって設置した例も多くみられた。村教育委員会の桃原薫氏によると、島外の多良間村出身者は出身地から離れている分、何かの形にして島に貢献・寄付したいと考える傾向が強いことを御教示いただいた。ルーツである多良間に対する強い思いを記念碑等からもうかがえると考えられる。

石碑・記念碑等の傾向

調査結果を元に若干の考察を行う。

（1）建立年代について

水納島・多良間島の記念碑等の建立年代をみると、全105件中、琉球王国時代5件（5%）、昭和戦前期（1930年代～1945年）6件（6%）、昭和アメリカ統治期（1945～1972年）12件（11%）、本土復帰以降（1972年～）76件（72%）、不明6件（6%）である。これまで調査された島の傾向と同様に、本土復帰以降に建立された記念碑等が最も多い結果となった。ただし、琉球王国時代に建立された梵字碑が4件あったことは特記事項といえる。

（2）記念碑等の数量について

字ごとに記念碑等を集計すると、水納6件（6%）、仲筋60件（57%）、塩川38件（36%）、その他1件（1%）となる（注13）。仲筋には、記念碑等が

集中している村役場や小学校、慰霊之塔、八重山遠見台公園があるとともに、指定文化財が比較的多いことも理由として考えられる。

（3）記念碑等の分類について

分類は当館が行ってきた従前の調査結果を踏まえつつ、主に前回の伊平屋島・野甫島の分類を基本とし、今回の調査状況に応じて種類を設定した。具体的には以下のとおりである。

- ①記念碑：周年行事、工事、受賞等の記念すべき事柄を周囲や後世に伝えることを目的としたもの
- ②説明板：名所等を一般に紹介することを目的とし、経緯や由来等を示したもの
- ③標柱・標石：②と同様の目的を有すが、書き示す内容が名称、日付等ごく限られたもの
- ④歌碑・詩碑：和歌等の作者の心情を表し、それを書き残すことを目的とするもの
- ⑤鳥居：神社や拝所の入口を表す目的で、鳥居の形を示すもの
- ⑥灯籠：信仰の表現や景観の美化を目的に、灯籠の形を示すもの
- ⑦慰霊碑：戦争等で失われた命に敬意を示し、慰霊して悲しみ等を後世へ書き残すことを目的とするもの
- ⑧顕彰碑：地域の偉人や恩人を顕彰することを目的とするもの
- ⑨憲章・宣言：自治体等が掲げる宣言等を公告することを目的とするもの
- ⑩像：上記の分類にあてはめられない石製等の像
- ⑪扁額：金属製の扁額（注14）
- ⑫梵字碑：琉球王国時代の梵字碑

ちなみに今回竹富島以来、梵鐘（銅鐘）も2件あったが、それぞれ記念碑や慰霊碑の目的で設置されていたため、分類を振り分けた。なお本分類は今後の事例の蓄積によって随時変更していくものであることを付け加える。

上記の分類に基づいて、本稿では記念碑等の銘文の内容や外見等から、105件すべてを①～⑫の分類にあてはめた。ただし内7件は2つの分類に該当したため、延べ112件として算出した。分類上、最も多かったのは標柱・標石の34件（30%）で、同様に記念碑が33件（29%）となり、この2つの分類で全体の約6割になった。標柱・標石の内、特

に文化財の標柱は 30 件確認し、文化財行政の取り組みの一端をうかがえる状況だった。また拝所に付随する鳥居や灯籠、扁額は 18 件（16%）で、竹富島の 15 件（約 20%）とほぼ同等なことから、伊平屋島・野甫島の約 9.5%が、竹富町域や多良間村域と比べて低い割合であることを示すことになった。一方、顕彰碑が占める割合は 1 件（1%）で、鳩間島・黒島・新城島及び伊平屋島・野甫島の 3%と近かったことから、竹富島の約 12%の特殊性をさらに強調することとなった。

水納島・多良間島記念碑等集成の記載について

(1) 記念碑等の調査結果を 1 件ずつまとめた。項目は分類、建立年月日、建立場所、材質、法量、方角、設置者、備考、銘文とした。

(2) 「分類」は先述のとおり、記念碑、説明板、標柱・標石、歌碑・詩碑、鳥居、灯籠、慰霊碑、顕彰碑、憲章・宣言、像、扁額、梵字碑の 12 種類とした。

(3) 「建立年月日」は、銘文から建立した時期と判断できるものを記した。また文献調査から判明したものも同様に記し、建立時期の手がかりになるものは個別事例によって記した。外見や記載内容から、おおよその時期が想定されるものは、不明としつつも「本土復帰以降」等と付した。

(4) 「材質」について、石材や金属を利用した記念碑等の場合に記録したが、詳細な分析に基づくものではなく、調査者が参考程度に判断したものであるため、改めて検討する必要がある。

(5) 「設置者」は、銘文から判断できるものを記した。また文献調査から明らかになったものも同様に記している。設置主体が記念碑等記載の個人・団体が明らかでなかったり、人名・団体名はあるが、設置主体とは断定できなかったりしたものは、不明として空欄にしている。個別事例によって「(人名・団体名)か」として、設置者である可能性が高い名称を記したことがある。

(6) 「銘文」は、基本的にすべての文字を記載した。紙面の都合上、実際と異なる位置で改行・字下げ等をしている場合がある。なお銘文が複数面に記されている場合の左右は、正面に向かった時の向きで示した。

(7) 銘文中の■は、摩耗や欠損等により調査者が判読できなかった文字を表している。想定される文字がある場合は、■の後ろに [] で補った。また誤字には「ママ」を付して、正字を [] で補った。

その他の歴史的な建造物等について

記念碑等の調査は、これまでも島内を徒歩や自転車、オートバイ、自動車を利用して巡り、できる限りの確認を行ってきた。今回多良間島の調査の過程で、復帰記念事業として 1971 年に完成した旧普天間港ターミナルの建物、前泊港から集落に向かう県道 205 号線沿いの港寄りの場所にある旧カルテックスの建物（港側にはカルテックスのマーク等のペイントが残っている）、その道向かい側に石灰を焼いた窯跡、村指定史跡の里之子墓のある旧墓地群にアジア・太平洋戦争で戦死した島出身者の個人墓（亡くなった場所等が墓石に記載）や古手の墓、村立図書館敷地内のシクキ石（井戸の傍らにあった石。井戸の水をくみ上げた桶（つるべ）を、頭に乗せる前に置くために利用）、1967 年に落成した旧多良間郵便局の建物（現在は多良間村婦人連合会等が利用）に埋め込まれた表札等を確認した。いずれも記念碑等の調査対象外だったが、島内に残る歴史的な建造物等を確認できたこともあわせて記す。

引用・参考文献（編著者五十音順）

- 石垣忍・崎原恭子・三枝大悟. 2019. 「伊平屋島・野甫島における石碑・記念碑等の調査報告」. 『伊是名島・伊平屋島総合調査報告書』. 沖縄県立博物館・美術館
- 沖縄県教育庁文化課. 1985. 『沖縄県文化財調査報告書第 69 集 金石文—歴史資料調査報告書 V—』. 沖縄県教育委員会
- 岸本弘人・石垣忍. 2016. 「鳩間島・黒島・新城島における石碑・記念碑等の調査報告」. 『鳩間島・黒島・新城島総合調査報告書』. 沖縄県立博物館・美術館
- 岸本弘人・崎原恭子・早瀬千明・島仲彌喜. 2012. 「竹富島における石碑・記念碑等の調査報告」. 『竹富島総合調査報告書』. 沖縄県立博物館・美術館

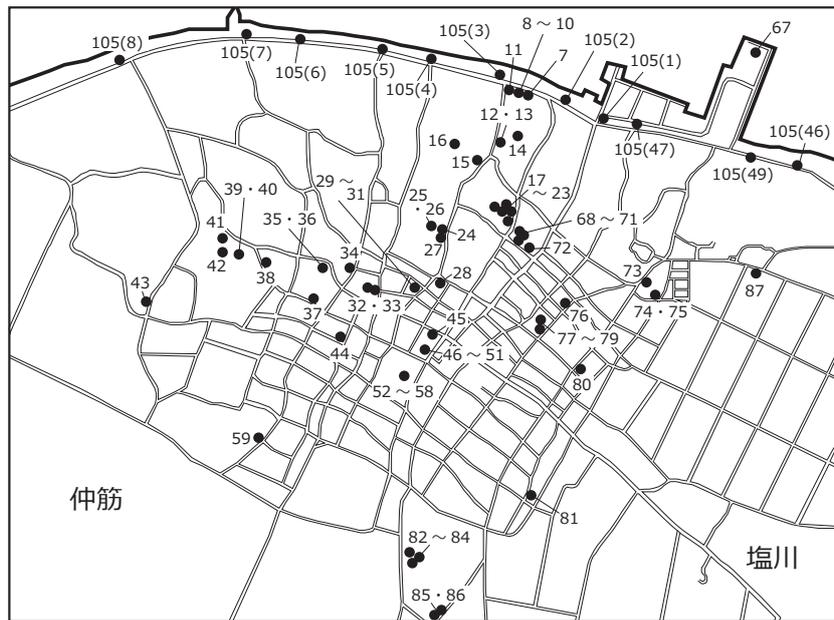
多良間村史編集委員会. 2000. 『多良間村史』 第1巻通史編島のあゆみ. 多良間村
 多良間村文化財保護委員会. 1974(2021改訂). 『多良間村の文化財』. 多良間村教育委員会
 多良間村役場. 2014. 『多良間村村制施行百周年記念誌』
 多良間村役場広報係. 1981. 『村民の友—多良間村広報—』 創刊号～第150号(昭和42年7月～昭和55年12月). 多良間村役場
 多良間村役場広報係. 2005. 『村民の友—多良間村広報—』 第151号～第255号(昭和56年1月～平成元年11月). 多良間村役場
 多良間村役場広報係. 2006. 『村民の友—多良間村広報—』 第256号～第325号(平成元年12月～平成8年10月). 多良間村役場
 仲里長和. 1998. 『沖縄の鳥居』

注 釈

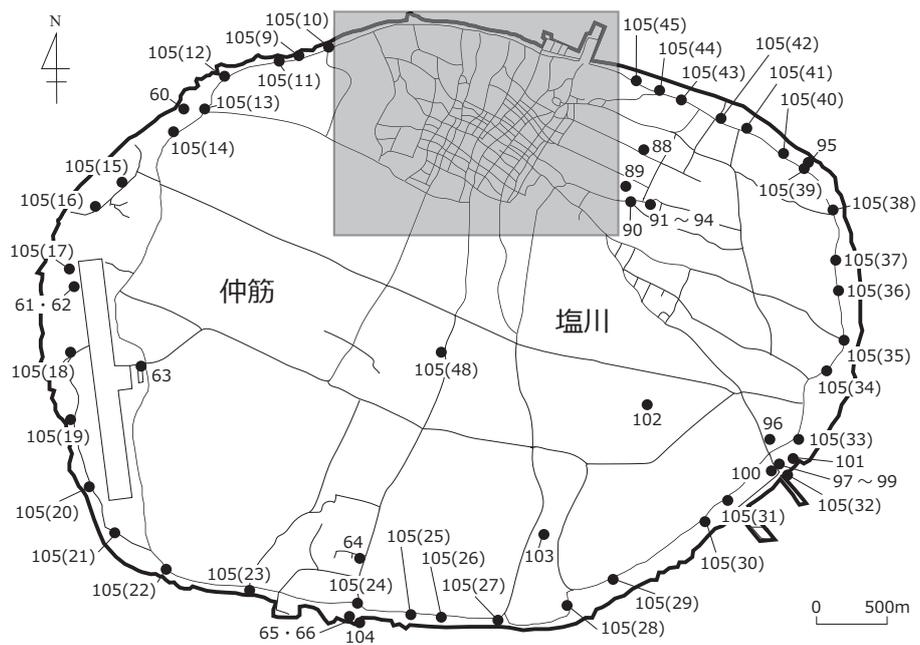
(注1) 『多良間村村制施行百周年記念誌』 P.10
 (注2) 同上
 (注3) 同上
 (注4) 『多良間村の文化財』 P. 1～8
 (注5) 『多良間村村制施行百周年記念誌』 P.416
 (注6) 特に桃原薫氏には、記念碑等の場所の御教示だけでなく、わかりにくい場所には同行いただくこともあり、大変お世話になった。
 (注7) 『多良間村の文化財』 P.45
 (注8) 『多良間村の文化財』 P.70 でも文字の摩滅によって読めないことが記されている。
 (注9) 『多良間村村制施行百周年記念誌』 P.404 に記載されている水納分校沿革の概要には、この年の8月に新校舎が増築され、教員住宅が新築されたことが記されている。
 (注10) 村指定の標柱は、村教育委員会の桃原薫氏からの御教示による。『多良間村の文化財』のP.46にある同文化財の紹介写真にも標柱がみえる。また井戸については、別調査中に当館の生物分野担当である菊川章主任学芸員が発見したものである。参考に撮られた写真では、井戸の側面に「水」や「團」の文字に加えて数文字がみえたが、判読までには至らなかった。

た。昭和戦前期に造られた可能性もあることのみ記す。

(注11) なお記念碑等の調査対象外としたが、各文化財には1990年代以降に整備されたステンレス製の文化財の説明板がみられた。標柱だけでなく、村内の文化財をより詳しく知らせる役割を果たしている。
 (注12) 多良間村が設置した記念碑等の内、現在では失われてしまった例を2つ、村教育委員会の桃原薫氏より御教示いただいた。1つ目は村役場の北隣りに1969年に落成した中央公民館建設記念碑(『多良間村村制施行百周年記念誌』 p.194～195に碑の写真が掲載されている)、2つ目は復帰記念事業として仲筋に整備された道路の完成記念碑である。なお塩川に整備された完成記念碑は現存している(記念碑等集成の76番参照)。
 (注13) 先述のとおり水納では調査漏れがある。またその他はトゥブリ等の標柱のことである。
 (注14) 多良間村には有形文化財に指定されている木製の扁額等もあるが、今回は金属製の扁額のみを対象とした。



(多良間島部分拡大図)



水納島・多良間島記念碑等集成 分布図

※本図では農道等省略した道路がある。

多良間島

水納島・多良間島記念碑等集成

水納島 字水納

番号：1

名称：村指定史跡 水納島の鳥塚



分類：標柱・標石

建立年月日：不明（1983年5月26日指定）

建立場所：鳥塚の東南側

材質：コンクリート

法量：高さ146.3cm 幅15.8cm 奥行15.0cm

方角：東北東

設置者：不明（多良間村か）

備考：側に鳥塚がある。法量は高さ66.5cm 幅28.0cm 奥行18.7cm。真っ二つに割れた痕跡がある。北西向き。台座は高さ約15cm 幅約55.5cm 奥行約48cm。また右脇に破損した石が置かれている。

銘文：

（正面）村指定 史跡 水納島の鳥塚

（背面）昭和五十八年指定

番号：2

名称：村指定史跡 水納御嶽



分類：標柱・標石

建立年月日：不明（1974年10月6日指定）

建立場所：水納御嶽参道入口手前の右脇

材質：コンクリート

法量：高さ149.5cm 幅15.8cm 奥行14.7cm

方角：南西

設置者：不明（多良間村か）

備考：

銘文：

（正面）村指定 史跡 水納御嶽

（背面）昭和四十九年十月六日指定

番号：3

名称：水納御嶽鳥居



分類：鳥居

建立年月日：1936年

建立場所：水納御嶽参道入口

材質：コンクリート

法量：（本体）高さ測定不能 幅約448cm 奥行約32cm
（基壇）高さ約18cm 幅62.0cm 奥行62.0cm

方角：南西

設置者：青年団

備考：

銘文：

水納島・多良間島記念碑等集成

番号：4

名称：神社改築鳥居建設記念碑



分類：記念碑

建立年月日：1937年1月17日以降

建立場所：水納御嶽鳥居の先の右脇

材質：コンクリート

法量：(碑) 高さ 128.3cm 幅 46.1cm 奥行 12.6cm

(台座) 高さ 47.5cm 幅 137.1cm 奥行 91.0cm

※最大

方角：西南西

設置者：青年団

備考：記念碑に塗られていた白色ペンキのような塗料がはがれている。

銘文：

(正面) 神社改築 鳥居建設 記念碑

(背面) 昭和丁丑十二年一月十七日 建

全旧丙子十一年二月五日 設

青年團

番号：5

名称：水納御嶽改築記念碑



分類：記念碑

建立年月日：1997年11月吉日

建立場所：水納御嶽本殿手前の参道右脇

材質：自然石の石灰岩に石灰岩製の銘板、台座はコンクリート

法量：(碑) 高さ約 114cm 幅約 60cm 奥行約 50cm ※最大

(正面の銘板) 縦 74.8cm 横 20.0cm 厚さ 3.0cm

(台座) 高さ最大 29m 幅 120.0cm 奥行 100.0cm

方角：南南東

設置者：

備考：

銘文：

(正面の銘板) 水納御嶽改築記念碑 平成九年十一月吉日

番号：6

名称：水納小中学校跡地の鉄棒



分類：記念碑

建立年月日：不明(1960年か)

建立場所：水納小中学校跡地の元校庭(道路側)

材質：コンクリート

法量：(柱) 幅 24.4cm 奥行 26.0cm

高さ 道路側から見て左から1・2番目 227.5cm、

3番目 216.5cm、4番目 177.5cm、5番目 119.5cm

(全体) 幅約 867cm

方角：東南

設置者：

備考：

銘文：

(道路側から見て左から1番目の柱正面)

六十周年記念

(左から3番目の柱正面) 益 (○内に益の字) 工場寄贈

水納島・多良間島記念碑等集成

多良間島 字仲筋

番 号：7

名 称：村指定史跡 イビの拝所



分 類：標柱・標石

建立年月日：不明（1983年5月26日指定）

建立場所：前泊港より西側の一周道路側

材 質：コンクリート

法 量：高さ 129.0cm 幅 14.7cm 奥行 15.4cm

方 角：北東

設 置 者：不明（多良間村か）

備 考：

銘 文：

（正面）村指定 史跡 イビの拝所

（背面）昭和五十八年五月二十六日指定

番 号：8

名 称：獅子像（阿吽）



分 類：像

建立年月日：1995年

建立場所：多良間シュンカニ歌碑敷地前

材 質：（像）安山岩か（台座）コンクリート

法 量：（像）高さ約 111cm 幅約 45cm 奥行約 68cm

（台座）高さ約 11cm 幅約 70cm 奥行約 80cm ※最大

方 角：北北東

設 置 者：翁長常勇、翁長千代

銘 文：

（正面向かって右側の阿形）

寄贈 石垣市字大川 135 番地 翁長常勇

（正面向かって左側の吽形）

寄贈 石垣市字大川 135 番地 翁長千代

番 号：9

名 称：多良間シュンカニ



分 類：歌碑・詩碑

建立年月日：1995年

建立場所：仲筋前泊浜

材 質：（石碑）輝緑岩（台座）石灰岩

法 量：（石碑）高さ 280cm 幅 160cm 奥行約 94cm

（台座）高さ約 62cm 幅約 232cm 奥行約 150cm ※最大

方 角：北東

設 置 者：多良間村文化協会

備 考：1995年6月4日に除幕式実施

銘 文：

（正面）

多良間シュンカニ

前泊道がまからよ マーン下り坂まから 小径からよ シューリ

主が船うしやぎがよ シューリ すが下りよ

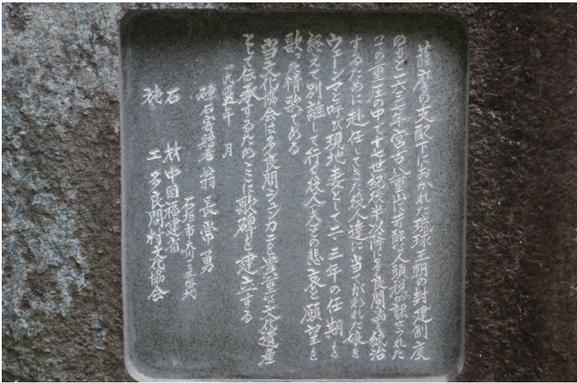
片手しやぼうずがましやうきよ マーン片手しや瓶ぬ酒持ていよ

シューリ主が船うしやぎがよ シューリ すが下りよ

東ん立つ白雲だきよ マーンわあらん立つ ぬり雲だきよ シュー

リ うふしややなりわあらだよ シューリばんたが主よ

水納島・多良間島記念碑等集成



(背面)

薩摩の支配下におかれた琉球王朝の封建制度のもと一六三七年宮古八重山に苛酷な人頭税が課せられたその重圧の中で十七世紀後半以降に多良間島を統治するために赴任してきた役人達に当てがわれた娘をウェーンマと呼び現地妻として二・三年の任期を終えて別離して行く役人(夫)との悲哀と願望を歌った情歌である

当文化協会は多良間シュンカニを貴重な文化遺産として伝承するためここに歌碑を建立する

一九九五年 月

碑石寄贈者 翁長常勇 石垣市大川一三五番地

石材 中国福建省

施工 多良間村文化協会



番号：10

名称：ウェーンマの別離の像



分類：像

建立年月日：1995年

建立場所：多良間シュンカニ歌碑の隣(西側)

材質：像は大理石で台座は石灰岩、銘板は輝緑岩

法量：(像) 高さ約210cm 幅103.8cm 奥行62.0cm ※最大
(銘板) 縦45.0cm 横67.8cm 厚さは計測不能
(台座) 全体高さ約73cm 上辺幅131.0cm
奥行88.7cm 下辺幅約160cm 奥行約122cm

方角：北東

設置者：

備考：

銘文：

(台座正面の銘板)

ウェーンマの別離の像

石材 中国福建省 寄贈者 翁長千代 石垣市大川135番地

番号：11

名称：村指定史跡 仕上世屋跡



分類：標柱・標石

建立年月日：不明(1983年指定5月26日指定)

建立場所：仕上世屋跡敷地の一周道路側

材質：コンクリート

法量：高さ131cm 幅15.3cm 奥行14.7cm

方角：北

設置者：不明(多良間村か)

備考：正面は縦方向に約1mの亀裂が生じている。

銘文：

(正面) 村指定史跡 仕上世屋跡

(側面) 昭和五十八年指定

水納島・多良間島記念碑等集成

番号：12

名称：村指定史跡 泊御嶽



分類：標柱・標石

建立年月日：不明（1974年9月18日指定）

建立場所：泊御嶽参道入口右脇

材質：コンクリート

法量：高さ 147.7cm 幅 13.7cm 奥行 15.5cm

方角：南西

設置者：不明（多良間村か）

備考：

銘文：

（正面）村指定 史跡 泊御嶽

（背面）指定 昭和四十九年九月十八日

番号：13

名称：泊御嶽鳥居



分類：鳥居

建立年月日：1958年か

建立場所：泊御嶽参道入口

材質：コンクリート

法量：高さ測定不能 幅約 308cm 奥行約 59cm ※最大

方角：西南西

設置者：

備考：泊御嶽本殿裏に「奉納 小祿」の銘のある香炉あり。

銘文：なし

番号：14

名称：泊御嶽灯籠



分類：灯籠

建立年月日：

建立場所：泊御嶽参道終点の本殿敷地手前

材質：コンクリート

法量：高さ約 181.6cm 幅 95.5cm 奥行 95.5cm

方角：南

設置者：

備考：参道を挟んで2基あり。

銘文：なし

水納島・多良間島記念碑等集成

番 号：15

名 称：村指定史跡 宮古遠見台



分 類：標柱・標石

建立年月日：不明（1974年10月16日指定）

建立場所：道路から宮古遠見台に延びる階段を上った左側

材 質：コンクリート

法 量：高さ 138.0cm 幅 15.9cm 奥行 15.0cm

方 角：南東

設 置 者：不明（多良間村か）

備 考：2007年には、国指定史跡 先島諸島火番盛の内、遠見番所宮古遠見として指定された。

銘 文：

（正面）村指定 史跡 宮古遠見台

（左面）指定 昭和四十九年十月十六日

番 号：16

名 称：村指定史跡 里之子墓



分 類：標柱・標石

建立年月日：不明（1983年5月26日指定）

建立場所：里之子墓入口左側の説明板横

材 質：コンクリート

法 量：高さ 145.5cm 幅 15.3cm 奥行 15.5cm

方 角：東

設 置 者：不明（多良間村か）

備 考：

銘 文：

（正面）村指定 史跡 里之子墓

番 号：17

名 称：多良間村非核平和の村宣言



分 類：憲章・宣言

建立年月日：1994年9月20日

建立場所：慰霊之塔等敷地の入口右側

材 質：本体は石灰岩、銘板は御影石

法 量：（本体）高さ 139cm、幅 317cm、奥行 70cm ※最大
（銘板）縦 106.0cm 横 149.7cm 厚さ 4.5cm

方 角：東南東

設 置 者：多良間村

備 考：

銘 文：

（正面）

○（多良間村章）

「多良間村非核平和の村宣言」

世界の恒久平和は、人類の共通の願いであります。



戦争は多くの尊い人命と貴重な財産、優れた文化遺産を破壊する人類にとって最大の悲劇であります。

我々は、国連憲章並びに日本国憲法に基づく世界平和と村民が安心して住める、平和で住みよい豊かな村づくりを目指して、努力しているところである。

しかし、今日の世界は、核兵器の増大と拡散により人類の生存に深刻な脅威を与えている。

我が国は、戦争による唯一の被爆国であり、我が県は国内唯一の地上戦が行なわれ、数多くの犠牲者を出しました。

このような痛ましい歴史をふり返り、私たちは全世界の人々に対して戦争の悲惨さを訴え、平和の尊さを後世に伝えなければなりません。

私たち、多良間村民は日本国憲法の平和理念に基づき、全村民連帯のもとに、平和で住みよい村づくりを目指し、地球上から一切の核兵器が廃棄されることを願い、全世界の人々とともに、人類の恒久平和を実現するように決意し、ここに多良間村は核兵器廃絶平和の村たることを宣言する。

一九九四年九月二十日

番号：18
名称：慰霊之塔灯籠①



分類：灯籠
 建立年月日：不明（1995年か）
 建立場所：慰霊之塔等敷地入口の両脇
 材質：大理石
 法量：高さ約263cm 幅約78cm 奥行約95cm
 ※2基とも同じ
 方角：東南東
 設置者：翁長常勇
 備考：
 銘文：※2基とも同じ
 （側面）寄進者 石垣市大川一三五 翁長常勇

番号：19
名称：慰霊之塔灯籠②



分類：灯籠
 建立年月日：1995年6月吉日
 建立場所：慰霊之塔等敷地に入って慰霊之塔参道の両脇
 材質：大理石
 法量：高さ約262cm 幅約90cm 奥行約74cm
 ※2基とも同じ
 方角：南西
 設置者：翁長常勇・翁長チヨ
 備考：
 銘文：
 （正面）捧燈 ※2基とも同じ
 （向かって右側の背面）寄贈 翁長常勇 石垣市大川一三五番地
 一九九五年六月吉日
 （向かって左側の背面）右側銘文中の名前が「翁長チヨ」

水納島・多良間島記念碑等集成

番号：20
 名称：獅子像（阿吽）



分類：像
 建立年月日：1997年4月
 建立場所：慰霊之塔等敷地に入って慰霊之塔参道の両脇
 材質：本体は安山岩系か、台座はコンクリート
 法量：（本体）高さ約110cm 幅45.6cm 奥行65.5cm
 （台座）高さ最大31.0cm 上辺幅57.0cm 奥行62.0cm
 下辺幅65.0cm 奥行70.5cm
 方角：南西
 設置者：翁長常勇、翁長千代
 備考：
 銘文：
 （阿形の正面）
 寄贈 石垣市字大川135番地 翁長 常勇
 （吽形の正面）
 寄贈 石垣市字大川135番地 翁長 千代
 （吽形の背面の台座）
 1997年4月（平成9年）

番号：21
 名称：慰霊之塔



分類：慰霊碑
 建立年月日：不明（1959年か）
 建立場所：慰霊之塔敷地基壇上
 材質：全体はコンクリート、銘板は御影石
 法量：（碑）高さ230cm前後 幅75.5cm 奥行75.5cm
 （正面の銘板）縦80.5cm 横233.3cm 厚さ4.0cm
 （台座）高さ113.0cm 幅265.8cm 奥行129.1cm
 方角：南西
 設置者：多良間村戦没者遺族会
 備考：正面右側に石製の仏像あり。台座の御影石に「永代にわたって墓所のお守りとご供養をさせていただきます。」という文あり。

銘文：
 （正面）
 慰霊之塔
 （正面の銘板）
 池間常康 池城朝信 西筋森吉 伊良皆朝弘 石原朝昆 花城豊源
 外間武雄 豊見山昌吉 徳山久雄 豊見本浩 渡久山清政 豊見盛朝良
 知念勇吉 知念武雄 知念繁 知念繁夫 翁長常信 大浦清 亀川義雄
 嘉味田朝詮 垣花春正 垣花常恒 狩俣常宏 亀川実垣花良雄
 高原春盛 高江洲良仁 立津春方 多良間常久 高原春仁 津嘉山春吉
 仲筋常栄 仲本泰良 仲本泰陣 上地玄公 山城常令 山城敏男
 松川朝英 松川朝真 松川朝誠 東風平勝弘 幸地辰夫 福原武義
 新城朝豊 佐和田朝伴 美里キヨ 下地春吉 下地朝俊 下地朝浩
 下地恵弘 下地朝弘 諸見里朝弘 本永屋真 本部勝正 本村恵良
 諸見里朝伴 砂川常誠 洲鎌春正 多嘉良玄盛 外間良吉 洲鎌朝栄
 宜野山隆雄 小禄福盛 興儀常良 武富玄章 高原久夫 仲程虎雄
 上地金 野里武吉 山川玄德 山城春善 前里聖八 新城敏夫
 沢村文雄 下地朝興 垣花常偉 森山春栄 青木雅英 本村朝令
 渡久山春浩





當真一雄 亀山春精 仲間勇 平良喜傳 野原武吉 仲筋常勝 宮里春教 東風平春重 東風平潤一 仲松春敷 佐渡山恵義 佐渡山恵 佐渡山恵政 幸林正雄 下地春雄 垣花常茂 真栄里民蔵 山城常公 本村恵成 村吉常仁 村吉常興 友利朝義 下地常英 亀山福太郎 嵩原春晴 仲地福三郎 荷川取正雄 平良泰山 小緑一男 外間重吉 福里久三 平良正安 富浜春松 西筋俊男 糸洲朝茂 泉川カマ 泉川セツ 仲本シズ 高江洲博 吉岡フミ 兼城あさ子 奥原蒲戸 奥原モサ 佐久本マパイ 大山直英 仲筋トヨ 豊見山ヒデ 佐久本真鶴 東風平カマド 仲筋カマ 久高クル 村山春栄 村山カマ 来間春夫 運天ウメ 運天ヤマ 運天春山 運天春則 下地利子 下地節子 渡口カマド 羽地カメ 伊良皆オト 宮城カマ 宮城常法 宮城カマド 宮城常英 宮城常完 宮城常男 宮城常快 比嘉カマド 平良澄子 荷川取ウモ 下里ヒデ 福里カマ 砂川ボナ 砂川弘 豊見山カマド 佐和田トミ

(背面)

昭和十二年日支事変の勃発を機会に世界の国際状〔情〕勢は悪化をたどり遂に大東亜戦争となり八年間に亘る大戦乱が惹起した。尚その以前には上海事変満州事変も起り是等の戦争又は事変に際し記名者は当時陸海軍の軍人軍属として参戦し不幸にも戦死を遂げました 昭和二十年八月戦争は終結し昭和三十四年八月当村に戦没者遺族会が結成され 永く戦没者の霊を慰め〔冥〕福を祈り尚合祀塔の建立計画が立てられました この塔は遺族会が戦没者のために永く合祀する意味において建立したものであります

昭和三十四年十一月八日 多良間村戦没者遺族会

番 号：22
名 称：句碑（歌碑）



分 類：歌碑・詩碑、慰霊碑

建立年月日：1985年6月23日

建立場所：慰霊之塔敷地内

材 質：本体と正面の銘板は石灰岩、背面の銘板は御影石

法 量：(本体) 高さ 181cm 幅 176cm 奥行 80cm ※最大

(正面) 縦 55.3cm 横 34.5cm

(背面の銘板) 縦 36.0cm 横 26.0cm

方 角：南

設 置 者：仲宗根

銘 文：

(正面)

せんだんの 緑のかげの 蝉の声に み霊やすかりて 世を護りまさむ

(背面の銘板)

祖國の繁栄と平和を一心に念じ武運つたなく祖國の楯と殉じられた英霊の永久に神鎮り給えと祈り四十年の周期に親愛の情を込め句碑を献し奉る

昭和六十年六月二十三日慰霊之日 仲宗根

水納島・多良間島記念碑等集成

番号：23

名称：世界平和念願乃鐘



分類：慰霊碑

建立年月日：1997年6月吉日

建立場所：慰霊之塔敷地内の鐘楼

材質：青銅

法量：全高約102cm 外口径60.5cm 内口径52.5cm

方角：北西（撞木側）

設置者：翁長常勇

備考：全面に黒色の塗料が塗られ、文字や模様は赤色に塗られている。文字及び模様は陽刻。撞木あり。

銘文：

（池の間）

歸命盡十方 無碍光如來

世界平和念願乃鐘 寄贈者石垣市大川一三五 翁長常勇 一九九七年六月吉日

（撞座側の縦帯）南無阿彌陀佛 ※2面とも同じ

（もう一方の縦帯）正覺大音響流十方 ※2面とも同じ

番号：24

名称：運城御嶽鳥居



分類：鳥居

建立年月日：1958年か

建立場所：運城御嶽参道入口

材質：コンクリート

法量：高さ測定不能 幅約409cm 奥行約40cm

方角：東南東

設置者：

備考：

銘文：なし

番号：25

名称：村指定史跡 運城嶽



分類：標柱・標石

建立年月日：不明（1974年9月18日指定）

建立場所：運城御嶽参道奥の脇にある右側の灯籠の前

材質：コンクリート

法量：高さ144.0cm 幅15.8cm 奥行15.3cm

方角：東南東

設置者：不明（多良間村か）

備考：下から長さ80cmほど亀裂があって鉄筋がむき出しになっている。

銘文：

（正面）村指定 史跡 運城嶽

（左面）指定 昭和四十九年九月十八日

水納島・多良間島記念碑等集成

番号：26

名称：運城御嶽灯籠



分類：灯籠

建立年月日：

建立場所：運城御嶽参道奥の両脇

材質：コンクリート

法量：高さ 193.8cm 幅 96.5cm 奥行 96.5cm ※最大

方角：南東

設置者：

備考：運城御嶽本殿裏に「奉納 小祿」の銘のある香炉あり。

銘文：なし

番号：27

名称：県指定 運城御嶽のフクギ群落



分類：標柱・標石

建立年月日：不明（1974年10月3日指定）

建立場所：運城御嶽の鳥居より南側の道路沿い

材質：コンクリート

法量：高さ 134.5cm 幅 15.5cm 奥行 15.0cm

方角：東

設置者：不明（多良間村か）

備考：指定月日と標柱の月日が異なる。

銘文：

（正面）県指定 天然記念物 植物群落

（背面）指定 昭和四十九年九月十八日

番号：28

名称：村指定史跡 アマガー



分類：標柱・標石

建立年月日：不明（1983年5月26日指定）

建立場所：アマガー敷地の入口

材質：コンクリート

法量：高さ 135.0cm 幅 14.9cm 奥行 14.5cm

方角：東

設置者：不明（多良間村か）

備考：

銘文：

（正面）村指定 史跡 アマガー

（背面）昭和五十八年指定

水納島・多良間島記念碑等集成

番 号：29
名 称：県指定史跡 ウプメーカ



分 類：標柱・標石
建立年月日：不明（1974年7月11日指定）
建立場所：ウプメーカに向かう通路左脇
材 質：コンクリート
法 量：高さ 141.5cm 幅 14.8cm 奥行 15.4cm
方 角：南南東
設 置 者：不明（多良間村か）
備 考：敷地内にある説明板では指定名称は「土原豊見親の
ミャーカ」とされている。また指定月日と標柱の月
日が異なる。
隣接地にあるコンクリート製の鉄棒に「昭和五四年
二月七日完成」の文字がある。
銘 文：
（正面）県指定 史跡 ウプメーカ
（背面）指定 昭和四十九年六月二十五日

番 号：30
名 称：ウプメーカ梵字碑（北側）



分 類：梵字碑
建立年月日：不明（1701年か）
建立場所：ウプメーカ北側の墓の西側面
材 質：琉球石灰岩
法 量：（石碑）高さ 63.2cm 幅 22.0cm 奥行約 13cm
（台座）高さ約 20cm 幅約 48cm 奥行約 30cm
方 角：北西
設 置 者：
備 考：石碑には石製の覆い（高さ約 79cm 幅約 38cm 奥行約
32cm）がある。
銘 文：※文字は説明板による。
（正面）
四時康熙四■天七月八日 土原豊宮霊位 末孫・・・春・・・敬白

番 号：31
名 称：ウプメーカ梵字碑（南側）



分 類：梵字碑
建立年月日：不明（1701年か）
建立場所：ウプメーカ南側の墓の西側面
材 質：琉球石灰岩
法 量：（石碑）高さ約 43cm 幅約 14.5cm 奥行約 5～8cm
（台座）高さ約 20cm 幅約 48cm 奥行約 37.5cm
方 角：北西
設 置 者：
備 考：石碑には石製の覆い（高さ約 64cm 幅約 32.5cm 奥行
約 20cm）がある。
銘 文：※文字は説明板による。
（正面）土原豊宮内室霊

水納島・多良間島記念碑等集成

番 号：32

名 称：多良間神社鳥居（手前）



分 類：鳥居

建立年月日：不明（戦後か）

建立場所：多良間神社参道入口

材 質：コンクリート

法 量：高さ測定不能 幅測定不能 奥行約 52cm（基盤）

方 角：東南東

設 置 者：斉藤食品株式会社 社長 斉藤猪作

備 考：

銘 文：

（正面左側の柱）奉納 斉藤食品株式会社 社長 斉藤猪作

番 号：33

名 称：多良間神社鳥居（奥）



分 類：鳥居

建立年月日：不明（戦後か）

建立場所：多良間神社参道奥

材 質：コンクリート

法 量：高さ測定不能 幅測定不能 奥行約 56.5cm（基盤）

方 角：東

設 置 者：

備 考：

銘 文：なし

番 号：34

名 称：多良間村ゲートボール場



分 類：記念碑

建立年月日：不明（1998 年以降か）

建立場所：ゲートボール場入口

材 質：石碑はサンゴ石、銘板は御影石、台座はコンクリート

法 量：（石碑）高さ約 139cm 幅約 210cm 奥行約 80cm

（銘板）縦 29.9cm 横 100.0cm

（台座）高さ 12cm 幅 210cm 奥行 119cm

方 角：東南東

設 置 者：多良間村役場

備 考：背面の日付は 28 日の可能性もあり。

銘 文：

（正面）結成 30 周年記念 多良間村ゲートボール場 多良間村役場

（背面）完成 平成 10 年 11 月 26 日

水納島・多良間島記念碑等集成

番 号：35
名 称：父母の碑



分 類：記念碑、歌碑・詩碑
 建立年月日：1982年1月
 建立場所：ゲートボール場より西側（父母の森）
 材 質：石碑は琉球石灰岩、銘板は御影石
 法 量：（石碑）高さ約180cm 幅約143cm 奥行約69cm
 （正面の銘板）縦69.7cm 横29.9cm 厚さ2.3cm
 （背面の銘板）縦49.8cm 横40.0cm 厚さ2.0cm
 （台座）高さ44.0cm 幅302.0cm 奥行151.3cm
 方 角：北西
 設 置 者：父母の碑建設発起人会
 備 考：
 銘 文：
 （正面の銘板）父母の碑
 （背面の銘板）
 島たてのゆかりある地に碑をば建て父母に感謝の心ささげん
 昭和五十七年一月 父母の碑建設発起人会

番 号：36
名 称：父母の碑歌碑



分 類：記念碑、歌碑・詩碑
 建立年月日：1982年9月
 建立場所：ゲートボール場より西側（父母の森）
 材 質：碑はコンクリート、銘板は御影石と銅板
 法 量：（碑）高さ204.5cm 幅116.5cm 奥行30cm
 （正面の銘板）縦125cm 横83.8cm 厚さ0.5cm
 （正面の銅板）縦29.8cm 横85.4cm
 （背面の銅板）縦175.3cm 横100.2cm 厚さ0.3cm
 （台座）高さ95.0cm 幅300cm 奥行200.5cm

方 角：南東
 設 置 者：
 備 考：
 銘 文：
 （正面の銘板）
 東ん立つ白雲だき 上らん立つぬり雲だき 大しゃなり来だよ
 あが子がまよ 地の極み海の果たても行きて我が 父母の名挙げて
 止むべきやはや
 父母の碑 出郷者有志
 （正面の銅板）



総企画者 垣花良香
 作 歌 全上
 建立責任者 下地昌一
 工 事 者 垣花春夫
 1982年9月建立
 （背面の銅板）※同額寄附者を示す「〃」は省略した。
 父母の塔寄附者芳名
 在沖繩郷友会（一二九名）
 五万円也 ○垣花良香 ○仲本朝英 砂川朝興
 参万六千円也 多良間文化会
 参万円也 垣花忠夫
 貳万円也 本村充
 壹万円也 藤村玄計 砂川長信 富盛常好 比嘉絹枝 ○比嘉敏
 本永良夫 ○下地春源 ○高江洌良弘 ○花城朝勇 ○
 徳山清長 立津朝清 下地春男 ○仲間徹 狩俣恒平 豊
 見盛朝正 豊原佐内



五千円也 池間常夫 ○伊志嶺春勇 仲程正吉 平良玄徳 花城朝秀 立津善徳 大嶺徳太郎 上間一輝 高江洌博 富永絹子 古謝鶴吉 松川光政 長嶺米次 大浜敏定 羽地政義 ○砂川虎吉 ○上原利彦 上原ボナ 長嶺英典 羽地恵雄 ○仲間登 ○志堅原勇 ○羽地玄誠 大城孫次郎 前里勝政

参千円也 池城清次 花城常勝 花城文雄 砂川守之丞 新城方喜 垣花哲夫 塩川源幸 当真清弘 豊見本勇 山城春順 奥浜雄亮 豊島弘 豊見山清 本村秀夫 下地朝勝 本村雅範

貳千円也 浜川実 砂川保 沢田朝昭 沢田シゲ 美里正富 野原栄次 美里稔 泉川春一 喜屋武達夫 新垣和正 当間敏正 多良間英正 垣花幸雄 新崎秀夫 ○名嘉真朝次 下地朝祥 上原昌子 立津春公 徳山三雄 仲松春源 国仲実 大城常正 上地玄明 奥平朝宏 上地マサ子 東風平キヨ 瑞慶覧良平 下地一男 山本清吉 豊見城トヨ 運天幸男 嘉味田豊一 藤本守男 安里宏 来間ミサ 津嘉山玄徹 松村義一 佐久本盛一 美里春雄 下地恵精 高江洌良造 西筋清次 大宜見春勝 奥平実 森山実 豊里勝一 羽地良公 親里忠吉 運天春陽 座喜味春良 野原俊吉 森山春納 森山国男 仲間良吉 宮国ミヤ 平良千賀 高江洌栄範 当間明美

壹千円也 豊里寛伝 大浦清宏 本村恵義 垣花宏信 上原泰業 兼本春一 山城勝男 川満良章

在宮古郷友会(五五名)

貳万円也 安谷屋玄長

壹万円也 当真清利 豊見山栄三 下地玄潤 山城強 本永恵良

五千円也 小山彦一 宇座昌市 大石幸子

四千円也 知念長助

参千円也 大浦一男 下地朝公 渡久山英市 知念正雄 下地朝栄 安里静夫 村山久雄 新垣武夫 池城恵正 豊見山寛 名城常一 諸見里朝正 照屋盛 美里泰雄 渡久山春吉 宮国宏永 伊良皆哲夫 佐久本朝次 徳嶺賀弘 仲本豊次 村田健治 塩川幸夫 前里利夫 仲本春一 仲本春信 下地朝雄 長崎恒夫 仲松光子 仲宗根玄雅 下地春賢 本村朝輝 本村キヨ 西平実雄 保栄茂春良 知念武一 友利尚義 知念勇 安田春教 久高実 仲筋正房 亀川博 花城秀雄 前里芳雄 富浜久夫

壹千円也 本部栄太郎

在八重山郷友会(九三名)

壹万円也 来間泰誠 吉田龍市 富浜兼 池村泰任 本村良雄 山城勇 亀谷善盛 垣花マツ 西玉得浩 本村雅明

五千円也 上原泰靖 武富ヒデ 当真繁男 松堂春伝 池城清 与世山清 与那覇昌一 崎山春山 高江洌良公 川平順栄 高良勇助 宮城寛栄 下地恵厚 平良真三郎 大底勲 伊良皆朝寛

四千円也 当真雄蔵

参千円也 翁長常勇 富浜春清 兼元二郎 松村弘治 松原繁 藤岡英正 源河玄恵 平良タケ 大浜勝弘 前里哲夫 前里常吉 山城常和

水納島・多良間島記念碑等集成

式千円也 宮平フミ 美里春雄 本村恵祥 宮良豊一 西原宏 保
 栄茂春栄 賀数朝俊 浜比嘉シゲ 亀山春勝 松原千
 代 安里キヨ 砂川サダ 村山春敷 伊舎堂春知 波照間
 トヨ 本村恵誠 川満正善 大松マツ 本村恵貢 保栄
 茂シゲ 仲本実 多良間恵美 友利徳一 糸数サダ 平
 良八十一 渡久山春用 伊舎堂春光 武富春吉 花城朝
 方 久高克巳 波平常和 美里春良 美里春茂 兼浜寛吉
 塩川静男 本村恵範 小禄一男

壹千円也 親泊金助 川平朝愛 伊良皆努 仲筋昌栄 村山光男
 上原幸善 上原正照 金城嘉宏 大見謝幸準 下地博
 渡久山朝吉 久高ボナ 村山春雄 平良兼 翁長ヨシ
 下地敏男 上原泰範

募金責任者

沖繩方面 垣花良香 仲本朝英

宮古方面 下地朝栄 徳嶺賀弘

石垣方面 来間泰誠 吉田龍市

註、氏名上の○は発起者

(株)沖産業 謹製 宜野湾市字伊佐一八番地

番 号：37

名 称：村指定史跡 土原ウガン



分 類：標柱・標石

建立年月日：不明（1983年5月26日指定）

建立場所：土原ウガン敷地の道路沿いの東側

材 質：コンクリート

法 量：高さ 135.6cm 幅 15cm 奥行 15.5cm

方 角：北東

設 置 者：不明（多良間村か）

備 考：標柱の中の鉄骨が剥きだしており、損傷が著しい。
 また指定年月日と標柱の年月日が異なる。

銘 文：

（正面）村指定 史跡 土原ウガン

（右面）指定 昭和四十九年十月十六日

番 号：38

名 称：村指定史跡 八重山遠見台



分 類：標柱・標石

建立年月日：不明（1974年10月16日指定）

建立場所：八重山遠見台公園入口の道向かい

材 質：コンクリート

法 量：高さ約 152cm 幅 15.3cm 奥行 15.2cm

方 角：草むら側に倒れている。

設 置 者：不明（多良間村か）

備 考：標柱の中央付近が横方向に割れたため倒したものと
 思われる。なお2007年には、国指定史跡 先島諸島
 火番盛の内、遠見番所八重山遠見として指定された。

銘 文：※左面が確認できなかった。

（正面）村指定 史跡 八重山遠見台

水納島・多良間島記念碑等集成

番 号：39
名 称：歌碑（大）



分 類：歌碑・詩碑

建立年月日：1978年12月

建立場所：八重山遠見台公園入口から上る道沿いの左側

材 質：本体は琉球石灰岩、銘板は大理石か

法 量：（全体）高さ250cm程度 幅120cm程度 奥行110cm程度
（正面の銘板）縦100.2cm 横36.0cm 厚さ3cm程度
（背面の銘板）縦75.7cm 横25.5cm 厚さ2.3cm
（台座）高さ26cm程度 幅290cm程度 奥行220cm程度

方 角：南西

設 置 者：1934年に多良間小学校へ入学した垣花良香と同級生の男子一同

備 考：

銘 文：

（正面の銘板）

かすみ立つ島の高嶺にのろしあげ就職にたつ船の子励ます
垣花良香作

（背面の銘板）

表の歌は昭和四十九年五月関西短歌連盟の金玉短歌に入選した垣花良香先生の作品である。昭和九年に多良間小学校へ入学した同級生男子一同、先生の入選を慶祝し感謝をこめて歌碑を建立する。

昭和五十三年十二月

糸洲朝昇 運天春宏 上原泰靖 大城常祐 大田清二 垣花常俊 垣花清俊 川満恵英 兼浜寛吉 佐久本朝次 佐和田朝弘 下地朝憲 多良間恵公 多良間朝公 富原正雄 当間清弘 当間繁男 豊見山玄靖 豊見山常也 比嘉正一 宮国玄治 村吉常男 本村恵真 本村恵信 与那覇昇 与那覇昌一（五十音順）

番 号：40
名 称：歌碑（小）



分 類：歌碑・詩碑

建立年月日：

建立場所：八重山遠見台公園入口から上る道沿いの左側

材 質：石碑はニービ、台座はコンクリート

法 量：（石碑）高さ62.9cm 幅32.9cm 奥行8.0cm
（台座）高さ42.5cm 幅70.5cm 奥行き70.5cm ※最大

方 角：北東

設 置 者：

備 考：「垣花」は垣花良香のことか。

銘 文：

（正面）

むすびにし 愛のかたみよ紅椿 故郷にかおれ 八千代ふるまで
垣花

水納島・多良間島記念碑等集成

番号：41
 名称：八重山遠見公園について



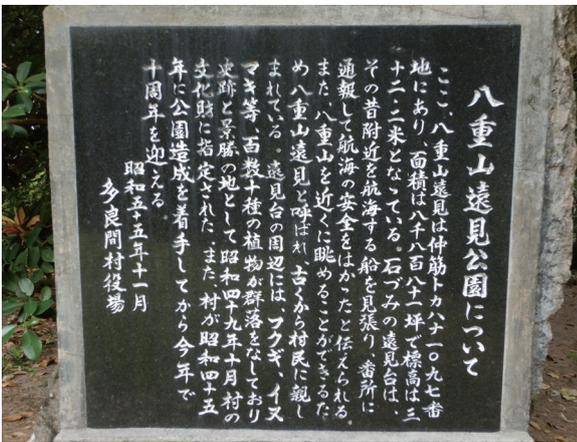
分類：説明板
 建立年月日：1980年11月
 建立場所：八重山遠見台の右横
 材質：本体は石灰岩にコンクリート、銘板は御影石
 法量：(全体) 高さ255cm程度 幅180cm程度 奥行80cm程度
 (正面の銘板) 縦115.0cm 幅120.5cm 厚さ測定不能
 (台座の枠) 高さ13.5cm 幅230.8cm 奥行き110～120cm程度
 方角：南東
 設置者：多良間村役場
 備考：
 銘文：

(正面)
 八重山遠見公園について

ここ、八重山遠見は仲筋トカハナ一〇九七番地にあり、面積は八千八百八十一坪で標高は三十二・二米となっている。石づみの遠見台は、その昔附近を航海する船を見張り、番所に通報して航海の安全をはかったと伝えられる。また、八重山を近くに眺めることができるため八重山遠見と呼ばれ、古くから村民に親しまれている。遠見台の周辺には、フクギ、イヌマキ等、百数十種の植物が群落をなしており史跡と景勝の地として昭和四十九年十月村の文化財に指定された。また、村が昭和四十五年

年に公園造成を着手してから今年で十周年を迎える。

昭和五十五年十一月 多良間村役場



番号：42
 名称：文化之鐘



分類：記念碑
 建立年月日：1993年3月吉日
 建立場所：八重山遠見公園の展望塔の頂上
 材質：青銅
 法量：計測不能
 方角：南西（文化之鐘銘）
 設置者：
 備考：撞木あり
 銘文：

(撞木側の縦帯)

文化之鐘
 (池の間)

個性豊かな文化村の象徴として、村民のしあわせを願い、多良間村制施行八〇周年を記念して、文化之鐘と銘じ、茲に建立する。

時平成五年三月吉日

水納島・多良間島記念碑等集成

番号：43

名称：県指定天然記念物 嶺原の植物群落



分類：標柱・標石

建立年月日：不明（1974年12月26日指定）

建立場所：民俗資料館西側脇のサトウキビ畑の西側にあるコンクリート塀の上

材質：コンクリート

法量：高さ最大148.0cm 幅15.0cm 奥行14.5cm

方角：南南東

設置者：不明（多良間村か）

銘文：

（正面）県指定天然記念物 嶺原の植物群落

（背面）昭和四十九年十二月指定

番号：44

名称：村指定天然記念物 しゅれーうがん



分類：標柱・標石

建立年月日：不明（1974年12月26日指定）

建立場所：しゅれーうがん敷地手前中央付近

材質：コンクリート

法量：（碑）高さ130.4cm 幅15.3cm 奥行15.0cm

（台座）高さ約16cm 幅約85cm 奥行約55cm

方角：南西

設置者：多良間村教育委員会

備考：

銘文：

（正面）村指定天然記念物 しゅれーうがん

（左面）指定 昭和四十九年十二月二十六日

（背面）多良間村教育委員会

番号：45

名称：水神 八大竜王



分類：記念碑

建立年月日：1993年5月か

建立場所：多良間村役場とコミュニティー施設の間にある祠と井戸の間

材質：不明

法量：高さ32.5cm 幅21.5cm 厚さ2.5cm ※最大

方角：西

設置者：

備考：

銘文：

（正面）

水神 八大竜王 平成五年七月



水納島・多良間島記念碑等集成

番号：46
名称：非核平和宣言村



分類：憲章・宣言
建立年月日：不明（1994年9月20日に非核平和宣言）
建立場所：多良間村役場庁舎敷地内
材質：不明（擬木）、銘板は御影石
法量：（全体）高さ131.0cm 幅182.5cm 奥行185.0cm
（正面の銘板）縦40.0cm 横150.0cm
（背面の銘板）縦10.0cm 横50.0cm 厚さ2.3cm
方角：南東
設置者：多良間村か
備考：
銘文：
（正面の銘板）非核平和宣言村
（背面の銘板）平成6年9月20日

番号：47
名称：藤村市政胸像



分類：顕彰碑
建立年月日：1986年5月吉日
建立場所：多良間村役場庁舎敷地内
材質：胸像と銘板は銅製、台座上部は御影石か、台座下部はコンクリートと石灰岩
法量：（胸像）高さ約78cm 幅約60cm 奥行37.7cm ※最大
（正面の銘板）縦44.0cm 横15.5cm 厚さ1.0cm
（背面の銘板）縦32.5cm 横41.7cm 厚さ0.8cm
（台座上部）高さ141.0cm 幅129.8cm 奥行129.6cm
※最大

方角：南東
設置者：銅像建立期成会
備考：
銘文：

（前面）
藤村市政先生の像
（背面）

碑文

藤村市政先生は明治二十九年に生れ、沖縄県立農林学校、沖縄県立師範学校本科第二部、沖縄県立師範学校専攻科を卒えて教育界で活躍、その間、多良間尋常高等小学校校長職責十二年余に及ぶ。

先生は、宮古郡〔群〕島議会議員、多良間村長、多良間村農協組合長、村教育委員長、教育長、文化財調査委員長、老人クラブ連合会を結成初代会長を歴任、産業面においては大豆栽培の普及、小型製糖工場の建設実現と大型工場の誘致促進、煙草産業の奨励に貢献され、学校教育及び社会教育、民俗文化財の保護育成に尽力された。

尚、初等教育振興と地方自治向上の基盤整備の功績で單光旭日章の叙勲に輝く。

有志相謀って島を愛する先生の温かな風格を後世に伝えるため、茲に銅像を建立する。

昭和六十一年五月吉日 銅像建立期成会



水納島・多良間島記念碑等集成

番号：48

名称：姉妹市村締結記念之碑



分類：記念碑

建立年月日：1996年2月6日

建立場所：多良間村役場庁舎敷地内

材質：本体及び台座上部は黒御影石、台座下部はコンクリート

法量：(本体) 高さ約64cm 幅約64cm 奥行15.5cm

(台座上部) 高さ12.0cm 幅55.5cm 奥行28.8cm

(台座下部) 高さ14.5cm 幅70.5cm 奥行約40cm

方角：南東

設置者：岩手県宮古市長

備考：

銘文：

(正面)

姉妹市村締結記念之碑

宮古市と多良間村は、安政六年に宮古の商船が多良間島に漂着し島民の手厚い保護を受け乗組員全員が無事帰還した史実にもとついて結ばれた市村であります。

ここに、両市村民の友好と親善を更に深め、教育 文化、観光、産業の交流をはかり、ともに繁栄することを念願し姉妹市村を締結します。

平成八年二月六日

岩手県宮古市長菊池長右工門

沖縄県多良間村長安里茂男

(背面)

平成八年五月吉日

建立 岩手県宮古市長 菊池長右工門

岩手県宮古市議会議長 蛇口原司

施工 岩手県宮古市 鈴木宏介

材質 岩手県産南部黒御影石

番号：49

名称：多良間村村民憲章



分類：憲章・宣言

建立年月日：1993年

建立場所：多良間村役場庁舎敷地内

材質：石碑は御影石か、台座はコンクリートの表面を石板で装飾

法量：(本体) 高さ約181.5cm 幅約217cm 奥行約80cm ※最大

(台座) 高さ50.0cm 幅206.5cm 奥行147.0cm

方角：南東

設置者：多良間村

備考：

銘文：

(正面)

多良間村村民憲章

私たち多良間村民は 恵まれた美しい自然と文化遺産の継承につとめ 力をあわせて住みよい平和な郷土の発展を願いこの憲章を定めます

私たち多良間村民は

一 村の伝統文化を守り 心豊かで和やかな村づくりにつとめます

水納島・多良間島記念碑等集成



- 一 自然を大切にしたい活力ある村づくりにつとめます
 - 一 互いに助け合いだれにも親切で礼儀正しい村づくりにつとめます
 - 一 としよりや子どもを大事にし 愛情ある村づくりにつとめます
 - 一 スポーツに親しみ 健康で明るい村づくりにつとめます
- (背面)

村制施行八十周年記念 平成五年制定・建立

番号：50
名称：多良間村制施行百周年記念碑



分類：記念碑
建立年月日：2013年11月28日
建立場所：多良間村役場庁舎敷地内
材質：御影石か
法量：(石碑) 高さ約136cm 幅約188.5cm 奥行約49.5cm※最大
(台座) 高さ47.0cm 幅120.4cm 奥行107.6cm
方角：南東
設置者：村制施行百周年記念事業実行委員会
備考：
銘文：

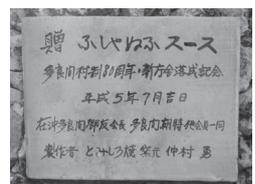
(正面)
○(多良間村章)
多良間村制施行百周年記念碑 平成25年4月1日
(背面)
多良間村は、大正2年4月1日「旧平良村」から分村し、村制を施行してから平成25年4月1日をもって百周年の節目を迎えた。
これを記念して、百周年記念碑を建立する。
平成25年11月28日 村制施行百周年記念事業実行委員会

番号：51
名称：ふしやぬふスース (多良間村制80周年・新庁舎落成記念)



分類：記念碑
建立年月日：1993年7月吉日
建立場所：多良間村役場庁舎敷地内
材質：獅子像と吽形背面の銘板は陶製、台座は石灰岩
法量：(獅子像) 高さ約102.5cm 幅約34cm 奥行約55cm
(吽形背面銘板) 縦29.0cm 横38.1cm 厚さ1.8cm
(台座) 高さ約45cm 幅約80cm 奥行約92cm ※最大
方角：南東
設置者：在沖多良間郷友会長 多良間朝時 他会員一同
備考：多良間村役場正面玄関に向かって左に阿形、右に吽形が設置されている。

銘文：
(吽形背面)
贈 ふしやぬふスース
多良間村制80周年・新庁舎落成記念
平成5年7月吉日
在沖多良間郷友会長 多良間朝時 他会員一同
製作者 とみしろ焼 窯元 仲村勇



水納島・多良間島記念碑等集成

番 号：52

名 称：母校五十周年記念碑（二宮金次郎像）



分 類：記念碑

建立年月日：1941年10月16日

建立場所：多良間小学校校庭内

材 質：石像は花崗岩系か、銘板は砂岩系か、台座はコンクリート
法 量：（石像）高さ約128cm 幅約40cm 奥行約54cm ※最大
（台座）高さ144.0cm 幅120.0cm 奥行118.0cm ※最大

方 角：南東

設 置 者：親里春順

備 考：台座に戦時中の空襲時の弾痕あり。

銘 文：

（正面）

至誠勤勞

（背面）

母校五十周年記念 昭和十六年十月十六日 寄贈 在東京親里春順

番 号：53

名 称：多良間小学校校歌



分 類：記念碑、歌碑・詩碑

建立年月日：1981年か

建立場所：多良間小学校校庭内

材 質：全体はコンクリートで銘板は御影石

法 量：（正面の銘板（大））縦61.5cm 横147.0cm

（正面の銘板（小））縦18.8cm 横9.0cm

（碑全体）高さ158cm 幅211cm 奥行81cm

方 角：南東

設 置 者：多良間小学校昭和55学年度卒業生一同

備 考：

銘 文：

（正面の銘板（小））

作詞 田盛正雄 作曲 新城正一

（正面の銘板（大））

多良間小学校校歌

- 一 黒潮うねる南海の 岸打つ波の花と咲く 常磐の島の高台に
燃ゆる希望の ひを受けて きよけくそびゆわが母校 きよ
けくそびゆわが母校
- 二 青空高きまなびやに 教えの庭の友垣が 正しく強くうるわ
しく 学びの道にいそしみて 和みに睦ぶ一心 和みに睦ぶ一
心
- 三 多良間健児よいざ諸共に 希望の光仰ぎつつ 広き四海の波
を越え 母校の誉れ道のため 文化の旗をおしたてん 文化の
旗をおしたてん

昭和五十五学年度卒業生一同

水納島・多良間島記念碑等集成

番号：54
名称：学校創立九十周年記念碑（少年・少女像）



分類：記念碑
建立年月日：1981年10月16日
建立場所：多良間小学校校庭内
材質：銅像と銘板は銅製、台座コンクリート製で石板で装飾
法量：（銅像）高さ約117cm 幅約43cm 奥行約35cm ※最大
（台座）高さ約129cm 幅94.3cm 奥行94.5cm ※最大
方角：南東
設置者：
備考：銅像は両手で地球を持ち上げる少年・少女の造形
銘文：
（正面）
若い希望
（背面）
学校創立九十周年記念 昭和五十六年十月十六日

番号：55
名称：母子像



分類：像
建立年月日：1966年2月
建立場所：多良間小学校校庭内
材質：母子像はコンクリートの表面をコーティング、台座はコンクリートの表面を石粒で装飾
法量：（母子像）高さ約97cm 幅約25cm 奥行約24.5cm ※最大
（台座）高さ117.0cm 幅83cm 奥行78.5cm
方角：北東
設置者：武富弘峻
備考：石像の表面コーティングが剥離している部分が多い。
銘文：
（正面の銘板）
はるかに 故郷をおもって この像を贈る
昭和四十一年二月 東京 武富弘峻

番号：56
名称：創立百周年記念碑「はばたけ多良間っ子」



分類：記念碑
建立年月日：1991年10月16日
建立場所：多良間小学校校庭内
材質：不明
法量：（本体）高さ約145cm 幅約269cm 奥行約70cm ※最大
（台座）高さ約35.5cm 幅約207.5cm 奥行約163cm ※最大
方角：北東
設置者：石垣在多良間郷友会 会長 山川朝源 外会員一同
備考：
銘文：
（正面）
はばたけ 多良間っ子
創立百周年記念
（背面）
寄贈 1991（平成3）年10月16日
石垣在多良間郷友会 会長 山川朝源 外会員一同
碑石寄贈 山川朝源 謹書 来間登喜男 字彫刻 崎山寛治

水納島・多良間島記念碑等集成

番 号：57

名 称：卒業記念碑「未来宣言」



分 類：記念碑

建立年月日：2014年3月20日

建立場所：多良間小学校校庭内

材 質：全体は石灰岩で、銘板は御影石

法 量：(全体) 高さ約115cm 幅約163cm 奥行約58cm ※最大
(正面の銘板) 縦50.0cm 横70.0cm 厚さ2.5cm
(台座) 高さ33.0cm 幅111.5cm 奥行134.0cm

方 角：南東

設 置 者：平成25年度卒業生一同

備 考：台座の正面側に卒業生16名の手形と名前、台座の背面側には平成25年度職員18名の名前が刻まれている。児童数(92名)の表記もあり。

銘 文：

(正面)

未来宣言

多良間村に誇りをもち 多良間村の美しい自然素晴らしい伝統と文化を守り 明るい未来に向け 惜しみない努力と無限の可能性を發揮し大きく羽ばたくことを誓います

平成二十五年 卒業記念

平成二十六年三月二十日卒業生一同

(台座の正面側)

め組 MEGUMI ※手形側の卒業生名は省略

(台座の背面側)

児童数 92名

校長宮城隆 教頭砂川武彦 教務大城勝志 一年大城悦子 二年上地創 三年砂川卓也 四年友利進弥 五年本村三男 六年川満めぐみ 算数保良妙子 理科伊良波智也 養護濱川萌 栄養士仲宗根典恵 司書佐和田さおり 事務上原卓也 用務鈴木澄子 ばら組島袋梅子 さくら組佐久本千恵子 平成二十五年職員

番 号：58

名 称：小学校敷地内石碑



分 類：記念碑か

建立年月日：

建立場所：多良間小学校校庭内にあるブランコの運動場側

材 質：石灰岩か

法 量：高さ67.0cm 幅30.0cm 奥行24.0cm

方 角：北西

設 置 者：

備 考：摩耗が著しいのでほとんど判読不能

銘 文：

(正面)

「人」の文字と王偏を斜体にしたような文字が確認できる。全体的な銘文は判読不能。

(左面)

■■三十四年六月■■ (日カ)

水納島・多良間島記念碑等集成

番号：59

名称：村指定史跡 ナガシガー



分類：標柱・標石

建立年月日：不明（1983年5月26日指定）

建立場所：ナガシガー入口右（道路脇）

材質：コンクリート

法量：高さ143.5cm 幅15.0cm 奥行15.3cm

方角：南東

設置者：不明（多良間村か）

備考：

銘文：

（正面）村指定史跡 ナガシガー

（背面）昭和五十八年指定

番号：60

名称：村指定史跡 オランダ商船遭難之地



分類：標柱・標石

建立年月日：不明（1983年5月26日指定）

建立場所：高田海岸

材質：コンクリート

法量：（残存部）高さ87cm 幅14.5cm 奥行16cm

（台座）高さ約15cm 幅約90cm 奥行約70cm

方角：南

設置者：不明（多良間村か）

備考：本体の上半部分が破損し隣に横たわっている。残存部は前方へ16度、左側へ10度傾斜している。

銘文：

残存部（正面）遭難之地 （背面）六日

破損部（前面）村指定史 （背面）昭和五十八年五月二十

番号：61

名称：鎮魂の碑



分類：慰霊碑

建立年月日：不明（本土復帰以降）

建立場所：多良間空港滑走路西側の外、フタツガー遺跡入口付近

材質：石灰岩に御影石の銘板、台座はコンクリート

法量：（本体）高さ約150cm 幅約146cm 奥行約73cm ※最大
（銘板）縦100.0cm 横30.0cm

（台座）高さ9.0cm 幅207.0cm 奥行137.0cm

方角：東

設置者：

備考：この付近にハンセン病患者が居住していたと伝わっている。

銘文：

（正面）鎮魂の碑

水納島・多良間島記念碑等集成

番号：62

名称：村指定史跡 フタツガー遺跡



分類：標柱・標石

建立年月日：不明（1989年8月1日指定）

建立場所：多良間空港滑走路西側の外

材質：標柱はコンクリート、台座は石灰岩

法量：（碑）高さ134cm 幅16cm 奥行15cm
（台座）高さ15cm 幅108cm 奥行100cm

方角：東

設置者：多良間村教育委員会

備考：

銘文：

（正面）村指定史跡 フタツガー遺跡

（左面）指定 平成元年八月一日

（背面）多良間村教育委員会

番号：63

名称：かりゆす多良間空港



分類：標柱・標石

建立年月日：不明（2003年か）

建立場所：多良間空港

材質：碑は石灰岩、銘板は御影石

法量：（全体）高さ179cm 幅340cm 奥行約105cm
（背面の銘板）縦37.0cm 横60.0cm 厚さ2.8cm

方角：東

設置者：

備考：

銘文：

（正面）かりゆす 多良間空港

（背面の銘板）平成15年10月10日供用開始

揮毫：沖縄県知事 稲嶺恵一

番号：64

名称：多良間村立多良間自練



分類：記念碑

建立年月日：不明（本土復帰以降）

建立場所：宮古市の森より北側のグラウンドゴルフ場跡地

材質：本体は石灰岩とコンクリート、銘板は御影石、台座はコンクリート

法量：（本体）高さ約140cm 幅約185cm 奥行約65cm
（正面の銘板）縦31.0cm 横117.3cm
（台座）高さ26.7cm 幅約3m 奥行約213cm

方角：東北東

設置者：

備考：

銘文：

（正面）

多良間村立多良間自練

（背面）

自動車練習所の概要

1. 建設期間 昭和54年度～55年度
2. 工事費 2千万円（村単独事業）
3. 開始年月日 昭和56年4月1日

水納島・多良間島記念碑等集成

番号：65

名称：報恩之碑



分類：記念碑

建立年月日：1976年11月吉日

建立場所：宮古市の森敷地内の報恩広場

材質：黒御影石

法量：(本体) 高さ約124.5cm 幅約216cm 奥行20cm ※最大
(台座) 高さ約64cm 幅約241cm 奥行77cm ※最大

方角：西

設置者：岩手県宮古市長 菊池良三

備考：石碑の周囲は石灰岩で二重に囲まれている。

銘文：

(正面)

報恩之碑

安政六年(西暦一八五九)一月南部宮古の帆船善宝丸江戸交易の帰途 暴風雨に遭う 水夫七名七十余日生死の間をさまよいこの地に漂着 救いを求め 多良間島民よく奔走してこれを庇護し もって全員恙なく帰郷するを得たり 以来百十有余年宮古市民深くこれを謝し胸に刻む ここに語り継ぐべき有縁を記し友愛を込めて一碑を建て 永久に記念するものなり

昭和五十一年十一月吉日

岩手県宮古市長 菊池良三

(背面)

書者、長根寺住 新山芳泉

施工、宮古市 鈴木祐一

材質、岩手県大橋産黒御影石

番号：66

名称：村指定史跡 報恩之碑



分類：標柱・標石

建立年月日：不明(1983年5月26日指定)

建立場所：報恩広場と宮古市の森の間

材質：コンクリート

法量：高さ145.5cm 幅15.3cm 奥行15.0cm

方角：北東

設置者：不明(多良間村か)

備考：

銘文：

(正面) 村指定 史跡 報恩之碑

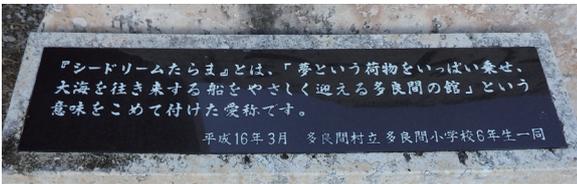
(背面) 昭和五十八年五月二十六日

水納島・多良間島記念碑等集成

多良間島 字塩川

番号：67

名称：シードリームたらま



分類：標柱・標石、説明板

建立年月日：不明（2004年か）

建立場所：前泊港待合ターミナル前

材質：本体は石灰岩、銘板は御影石

法量：（石碑）高さ約171cm 幅約300cm 奥行約82cm

（手前の銘板）縦30.0cm 横130.0cm

（銘板の台座）高さ50.0cm 幅140.0cm 奥行40.0cm

方角：南東

設置者：多良間村立多良間小学校6年生一同

備考：

銘文：

（正面）シードリームたらま

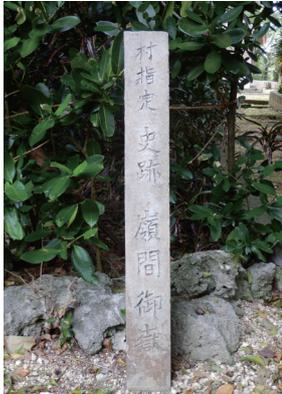
（手前の銘板）

『シードリームたらま』とは、「夢という荷物をいっぱい乗せ、大海を往き来する船をやさしく迎える多良間の館」という意味をこめて付けた愛称です。

平成16年3月 多良間村立多良間小学校6年生一同

番号：68

名称：村指定史跡 嶺間御嶽



分類：標柱・標石

建立年月日：不明（1974年9月18日指定）

建立場所：嶺間御嶽参道入口鳥居の左側

材質：コンクリート

法量：高さ131.7cm 幅15.5cm 奥行15.0cm

方角：南西

設置者：不明（多良間村か）

備考：

銘文：

（正面）村指定史跡 嶺間御嶽

（右面）指定 昭和四十九年九月十八日

番号：69

名称：嶺間御嶽鳥居



分類：鳥居

建立年月日：1939年12月27日

建立場所：嶺間御嶽参道入口

材質：コンクリート

法量：高さ340cm程度 幅約370cm 奥行約30cm

方角：南南西

設置者：灯籠を奉納した豊見城玄良、冽鎌朝栄か

備考：

銘文：

（左柱の正面）奉納 昭和十四年十二月廿七日

水納島・多良間島記念碑等集成

番号：70

名称：嶺間御嶽灯籠



分類：灯籠、記念碑

建立年月日：1939年12月

建立場所：嶺間御嶽の参道を抜けた本殿の敷地内

材質：コンクリート

法量：高さ約195cm 幅72.5cm 奥行73.0cm ※最大

※2基とも同寸

方角：本殿に向かって左側が南東、右側が北西

設置者：豊見城玄良、洩鎌朝栄

備考：「奉納」の文字が刻まれている面を正面とした。

銘文：

本殿に向かって左側

(正面) 奉納

(右面) 日支事変軍属記念 昭和十四年十二月 豊見城玄良

本殿に向かって右側

(正面) 奉納

(左面) 日支事変軍属記念 昭和十四年十二月 洩鎌朝栄

番号：71

名称：嶺間御嶽内の構造物



分類：記念碑

建立年月日：1963年12月4日

建立場所：本殿向かって左側脇

材質：コンクリート

法量：高さ83.5cm 横約94cm 奥行約107cm

方角：南東

設置者：

備考：別場所に設置されていたものが移動された可能性あり。

銘文：

1963年12月4日完成 工事立人花城常俊

二才頭 垣花春良

保〔補〕佐

上里英孝 池間常公 垣花常賀 上地親栄 下地朝栄 宮原弘方 花城常俊 山里朝康 下地成次 下地常靖 山里景嘉 糸洩朝勇 山城常範 池城市政 以上十四名

番号：72

名称：嶺間会場



分類：記念碑、標柱・標石

建立年月日：2021年3月

建立場所：嶺間会場の前庭

材質：御影石

法量：(石碑) 高さ約47cm 幅100.5cm 奥行12.5cm

(台座) 高さ8.3cm 幅140.4cm 奥行62.3cm

方角：南東

設置者：豊見城畜産

備考：

銘文：

(正面)

嶺間会場 竣工 2021年3月 寄贈 豊見城畜産

(背面)

嶺間区 区長 親里隆一

建設委員会

会長 翁長文一 事務局 豊見城玄弘 幹事 垣花和男

施工業者 有限会社 郷土開発 石材業者 大宮石材 越崎政美

水納島・多良間島記念碑等集成

番号：73

名称：村指定史跡 シュガーガー



分類：標柱・標石

建立年月日：不明（1983年5月26日指定）

建立場所：夢パティオたらまの東側

材質：コンクリート

法量：高さ 133.0cm 幅 15.0cm 奥行 14.5cm

方角：北西

設置者：不明（多良間村か）

備考：

銘文：

（正面）村指定史跡 シュガーガー

（背面）昭和五十八年指定

番号：74

名称：灯籠（シュガーガー敷地）



分類：灯籠

建立年月日：

建立場所：シュガーガー敷地内の南側、十字路付近

材質：不明

法量：高さ約 175cm 幅約 48cm 奥行約 44cm ※2基とも同寸

方角：南

設置者：

備考：

銘文：

（入口から見て右側灯籠の正面）奉

（入口から見て左側灯籠の正面）納

番号：75

名称：記念碑（シュガーガー敷地）



分類：記念碑

建立年月日：1994年5月吉日

建立場所：シュガーガー敷地内の灯籠の奥

材質：石碑は御影石、台座は石灰岩

法量：（石碑）高さ 20.5cm 幅 39.0cm 奥行 10.0cm
（台座）高さ約 61cm 幅約 54cm 奥行約 33cm

方角：東

設置者：池城正義他

備考：

銘文：

（正面）

豊見盛朝正 池城行雄 奥平玄一 羽地良正 豊見盛寛 山城勝男
天久健次 山城常義 下地健 池城キヨ 長崎一雄 豊見城正一 池
城市政 津嘉山次生 池城哲男 天久春則 池城久恵 池城正義

（背面）

1994年5月吉日

（平成6年）

世話人代表 池城正義

水納島・多良間島記念碑等集成

番号：76

名称：復帰記念事業道路



分類：記念碑

建立年月日：1971年8月

建立場所：大道団地と畑との境界付近

材質：コンクリート

法量：(本体) 高さ 106.0cm 幅 32.0cm 奥行 22.0cm

(台座) 高さ 9.5cm 幅 32.0cm 奥行 23cm※計測可能値

方角：南南東

設置者：多良間村

備考：当初は塩竈団地の角の電信柱付近に建っていたが、塩竈団地の建設に伴って現在のココ・コーラの自動販売機付近に移動し、その後現在地に移動された。

銘文：

(正面) 復帰記念事業道路

(背面) 塩川地区四号線

長六三四、五米 巾四米

工費一四、三〇ドル

一九七一年八月完成 多良間村

その他：多良間村社会福祉協議会付近にも字仲筋の復帰記念事業道路の完成記念碑があったそうだが、いつの間にか無くなっていたそうである。

番号：77

名称：村指定史跡 寺山



分類：標柱・標石

建立年月日：不明(1974年7月11日指定)

建立場所：県指定史跡・寺山の出入口

材質：コンクリート

法量：(本体) 高さ 104.7cm 幅 14.5cm 奥行 15.0cm

(台座) 高さ 5.5cm 幅 30.5cm 奥行 29.6cm※計測可能値

方角：南東

設置者：不明(多良間村か)

備考：文字は刻まれておらず、黒字で記されている。

銘文：

(正面) 県指定 史跡 寺山

番号：78

名称：寺山遺跡梵字碑



分類：梵字碑

建立年月日：1701年9月吉旦

建立場所：寺山遺跡内の大岩(トゥンバラ)の上

材質：ニール

法量：高さ約 57cm 幅 32.3cm 奥行 6.3cm

方角：南西

設置者：

備考：梵字の詳細は沖縄県教育委員会『金石文—歴史資料調査報告書—』1985年のP.148に掲載されている。梵字碑の正面以外は別の石で覆われている。また梵字碑に向かって左側に「神」の文字が刻まれた碑のような石がある。

銘文：

(正面)

上部円内の梵字はアビラウンケンに光明真言、中央は十三仏を表す梵字(『金石文』より)

大清康熙四十年辛巳九月吉旦

密之心海盛山拜書敬白(花押)



水納島・多良間島記念碑等集成

番号：79

名称：寺山遺跡五輪供養塔



分類：梵字碑

建立年月日：不明（1701年か）

建立場所：寺山遺跡内の大岩（トゥンバラ）の上、梵字碑の隣

材質：石灰岩

法量：（五輪部分と台）高さ40.5cm 幅28.5cm 奥行21.5cm
（台座）高さ約100cm 幅約118cm 奥行約84cm ※最大

方角：南東

設置者：

備考：梵字の詳細は沖縄県教育委員会『金石文—歴史資料調査報告書—』1985年のP.148～149に掲載されている。

銘文：

五輪部分にキヤカラバア（空・風・火・水・地）の五大、すなわち仏教の宇宙を表す梵字（『金石文』より）

番号：80

名称：村指定史跡 ヒトマタウガン



分類：標柱・標石

建立年月日：不明（1974年10月16日指定）

建立場所：敷地の入口右側

材質：コンクリート

法量：高さ132.7cm 幅15.5cm 奥行15.5cm

方角：東北東

設置者：不明（多良間村か）

備考：2015年に設置された説明板の指定名称には「ピーストウマタウガン」と記されている。標柱右面の「十月十六日」は刻まれておらず文字が消えかけている。

銘文：

（正面）村指定史跡 ヒトマタウガン

（右面）指定 昭和四十九年十月十六日

番号：81

名称：村指定史跡 フシャトウガー



分類：標柱・標石

建立年月日：不明（1983年5月26日指定）

建立場所：フシャトウガーに向かう道の右脇

材質：コンクリート

法量：高さ137.0cm 幅15.0cm 奥行15.0cm

方角：北西

設置者：不明（多良間村か）

備考：後方へ14度傾斜している

銘文：

（正面）村指定史跡 フシャトウガー

（背面）昭和五十八年指定

水納島・多良間島記念碑等集成

番号：82

名称：多良間中学校校歌



分類：歌碑・詩碑

建立年月日：1986年3月吉日

建立場所：多良間中学校敷地内（校門入って左側）

材質：碑はコンクリートで、銘板は御影石

法量：（全体）高さ154.5cm 幅151.5cm 奥行75.4cm
 （校歌の銘板）縦89.8cm 横130.0cm 厚さ1.5cm
 （寄贈の銘板）縦40.0cm 横60.0cm 厚さ1.0cm
 （台座）高さ約20cm 幅218.0cm 奥行144.0cm

方角：南

設置者：多良間ハル

備考：寄贈者は多良間中学校の元教諭（音楽科）

銘文：

（校歌の銘板）

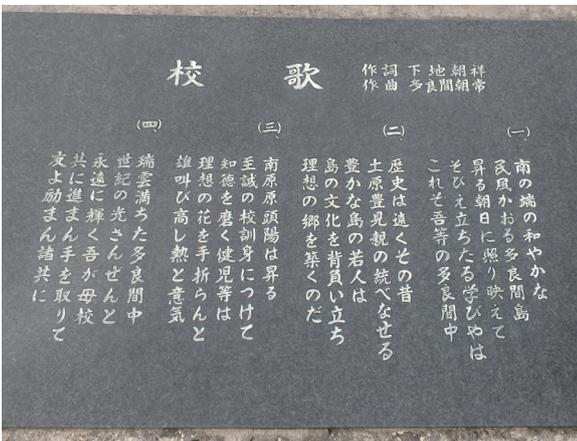
校歌

作詞 下地朝祥 作曲 多良間朝常

- （一）、南の端の和やかな 民風かおる多良間島
 昇る朝日に照り映えて そびえ立ちたる学びやは
 これぞ吾等の多良間中
- （二）、歴史は遠くその昔 土原豊見親の統べなせる
 豊かな島の若人は 島の文化を背負い立ち
 理想の郷を築くのだ
- （三）、南原原頭陽は昇る 至誠の校訓身につけて
 知徳を磨く健児等は 理想の花を手折らんと
 雄叫び高し熱と意気
- （四）、瑞雲満ちた多良間中 世紀の光さんぜんと
 永遠に輝く吾が母校 共に進まん手を取りて
 友よ励まん諸共に

（寄贈の銘板）

寄贈 昭和61年3月吉日 多良間ハル



番号：83

名称：多良間中学校卒業記念碑



分類：記念碑

建立年月日：2013年3月

建立場所：多良間中学校校庭内

材質：石碑は石灰岩で、銘板は大理石か

法量：（全体）高さ約195cm 幅約135cm 奥行約90cm ※最大
 （銘板）縦45.0cm 横70.0cm 厚さ2.0cm

方角：西

設置者：

備考：

銘文：

（正面の銘板）

校訓 至誠 第65期生卒業記念 平成25年3月

水納島・多良間島記念碑等集成

番号：84

名称：多良間中学校創立 50 周年記念碑



分類：記念碑

建立年月日：1998年9月10日

建立場所：多良間中学校校庭内

材質：石碑は石灰岩で、銘板は御影石

法量：(全体) 高さ約 122.5cm 幅約 310cm 奥行約 110cm ※最大
(正面の銘板) 縦 45.0cm 横 71.0cm 厚さ 2.0cm

方角：西

設置者：

備考：

銘文：

(正面の銘板)

躍進 創立 50 周年記念 平成 10 年 9 月 10 日

番号：85

名称：多良間中学校卒業及び修学旅行 50 周年記念碑



分類：記念碑

建立年月日：2021年5月21日

建立場所：多良間中学校グラウンド第3コーナー付近

材質：石碑は石灰岩で、銘板は御影石

法量：(全体) 高さ約 95cm 幅約 104cm 奥行約 56cm ※最大
(銘板) 縦 64.8cm 横 29.8cm 厚さ 2.0cm
(台座) 高さ 5.0cm 幅 112.5cm 奥行 76.0cm

方角：北西

設置者：多良間中学校 23 期卒 (30 会一同)

備考：

銘文：

(正面の銘板)

瑞雲

我々、多良間中学校第二十三期卒（昭和三十年、三十一年生まれ）は、卒業五十周年及び多良間中学校初（第一回）の修学旅行から、五十周年となることを記念して、この碑を建立する。

令和三年（二〇二一）五月二十一日

多良間中学校二十三期卒（三〇会一同）

番号：86

名称：タイムカプセル及び刻字石



分類：記念碑

建立年月日：不明（1980年以降か）

建立場所：多良間中学校グラウンド第3コーナー付近

材質：①タイムカプセル大志は、全体はコンクリートで銘文は御影石

②タイムカプセル至誠は、御影石

③生命及び④人性は不明

法量：①(全体) 高さ 64.0cm 幅 58.5cm 奥行 14.0cm
(銘板) 縦 60.0cm 横 50.0cm 厚さ 2.0cm

②高さ 54cm 幅 41.5cm 奥行 15.5cm

③高さ 19.0cm 幅 27.0cm 奥行 10.5cm

④高さ 28.0cm 幅 17.5cm 奥行 13.5cm

方角：なし

設置者：

備考：4点ともほとんど同じ場所に置かれている。



銘 文：

- ① TIME CAPSULE 第 32 回 卒業記念 大志
埋設 1980 年 3 月 22 日 再会 2001 年 吉日
多良間村立多良間中学校
- ② タイムカプセル 至誠 第 54 期 卒業記念
2002（平成 14）年 3 月 17 日埋設
2017（平成 29）年 1 月 吉日開封
- ③（正面）生命（背面）川平 一九八十年
- ④（前面）人性（背面）一九八十年 二・十 ■ 東風平

番号：87

名称：阿嘉利原地区土地改良事業完了記念
碑「和」



分 類：記念碑

建立年月日：2004 年 3 月

建立場所：阿嘉利原第 1 地区貯水池の北側

材 質：石碑は御影石、台座はコンクリートで表面を石板で
装飾

法 量：（石碑）高さ 110.5cm 幅 200.0cm 奥行 60.0cm
（銘板）縦 36.0cm 横 94.0cm
（台座）高さ約 105cm 幅 308cm 奥行 170cm

方 角：北西

設 置 者：下記銘板のとおり

備 考：

銘 文：

（正面）和

（銘板）

多良間島の農の精神は、ユイマールに象徴されるように和の一文字で表すことができる。

阿嘉利原地区は、個々の農家の和でもって事業の早期完成を迎えた。

阿嘉利原地区土地改良事業完了を記念して石碑を建立するに当たり、子々孫々まで和の精神を守り、継承していくことを願いここに和の一文字を刻む。

平成 16 年 3 月

阿嘉利原地区農家一同

多良間村役場建設課

宮古支庁農業水産整備課

水納島・多良間島記念碑等集成

番号：88

名称：青木酒造所跡



分類：記念碑

建立年月日：1979年8月吉日

建立場所：阿嘉利原第1地区貯水池南側道路を東方向に約1km

材質：石碑は二一ピ、台座は石灰岩の上部にコンクリート

法量：(石碑) 高さ約78cm 幅約60cm 奥行約20cm

(台座) 高さ約50cm 幅約320cm 奥行約260cm ※最大

方角：西

設置者：

備考：敷地内に井戸と拝所がある。

銘文：

(正面)

青木酒造所跡

この碑は青木雅英が昭和九年より同十九年まで此の地にて酒造所を営んだ事を記念して建立す。

昭和五十四年八月吉日 建之

番号：89

名称：村指定史跡 パリ°マガー遺跡



分類：標柱・標石

建立年月日：不明(1989年8月1日指定)

建立場所：パリ°マガー遺跡の入口

材質：コンクリート

法量：高さ44.0cm 幅14.5cm 奥行15.5cm ※残存部の最大

方角：北東

設置者：多良間村教育委員会

備考：標柱が破損して根元の一部が残存している。側には遺跡名等が刻まれた部分の破片が置かれている。

銘文：

残存部分には文字なし。残欠に史跡名や指定年、設置者の情報が刻まれている。

番号：90

名称：県指定天然記念物 塩川御嶽の植物群落
並びにフクギ並木



分類：標柱・標石

建立年月日：不明(1974年10月3日指定)

建立場所：塩川御嶽に向かう参道のフクギ並木の途中

材質：コンクリート

法量：高さ約111.5cm 幅15.0cm 奥行15.5cm ※残存部の最大

方角：南西

設置者：不明(多良間村か)

備考：

銘文：

残存部分の右面に文字があるが判読不能。残欠に「指定 昭」の文字あり。その他の残欠には「県指定 天然記念物」「福木」の文字が確認できる。

水納島・多良間島記念碑等集成

番号：91

名称：村指定史跡 塩川御嶽



分類：標柱・標石

建立年月日：不明（1974年9月18日指定）

建立場所：塩川御嶽の鳥居の右脇

材質：コンクリート

法量：高さ 129.0cm 幅 15.0cm 奥行 15.5cm

方角：北西

設置者：不明（多良間村か）

備考：上部に亀裂がある。

銘文：

（正面）県指定 史跡 塩川御嶽

（右面）指定 昭和四十九年九月十八日

番号：92

名称：塩川御嶽鳥居



分類：鳥居

建立年月日：2010年8月18日

建立場所：塩川御嶽の参道上

材質：鳥居はコンクリート、銘板は御影石

法量：（全体）高さ約 330cm 幅 420cm 程度 奥行約 55cm

（正面上の銘板）縦約 40.5cm 横約 18cm 厚さ 1cm

（背面左柱の銘板）縦 15.0cm 横 13.0cm 厚さ 1.5cm

（背面右柱の銘板）縦 15.0cm 横 13.0cm 厚さ 1.5cm

方角：北西

設置者：仲本泰彦

備考：

銘文：

（正面上の銘板）塩川御嶽

（背面左柱の銘板）寄贈 仲本泰彦 二〇一〇年八月十八日

（背面右柱の銘板）揮毫 名城常一 御影石 名城寿夫

番号：93

名称：塩川御嶽灯籠①



分類：灯籠

建立年月日：琉球王国時代か

建立場所：塩川御嶽の参道途中の左脇（灯籠②より手前）

材質：仲筋古砂丘の栗石

法量：高さ約 130cm 横約 78cm 奥行 75.5cm ※最大

方角：北西

設置者：

備考：表面に欠けや摩耗あり。1基のみで対はない。

1938年に塩川御嶽を訪れた河村只雄写真にあり

（『多良間村村制施行百周年記念誌』 p.80 掲載）。

銘文：なし

水納島・多良間島記念碑等集成

番号：94

名称：塩川御嶽灯籠②



分類：灯籠

建立年月日：1960年2月22日

建立場所：塩川御嶽の参道途中の両脇（灯籠①より奥）

材質：コンクリート

法量：高さ約184cm 幅113.0cm 奥行113.0cm

※2基とも同寸

方角：北西

設置者：

備考：塩川御嶽本殿裏に「奉納小祿」の銘のある香炉あり

銘文：

（参道右脇の正面）奉納

（参道右脇の背面）1960年2月22日施工

（参道左脇の背面）昭和35年

番号：95

名称：パナリ御嶽鳥居



分類：鳥居

建立年月日：1936年8月

建立場所：パナリ御嶽の参道入口

材質：コンクリート

法量：（全体）高さ350cm程度 幅約383cm 奥行約33.5cm

（右柱の銘板）縦39.0cm 横16.5cm

（左柱の銘板）縦41.0cm 横15.0cm

方角：南西

設置者：金城盛守 青木酒造場

備考：

銘文：

（右柱の銘板）

奉納 金城盛守 青木酒造場

（左柱の銘板）

昭和拾壹年八月建設 監督福原尚長 奥平■ [盛カ] 栄天久

番号：96

名称：畜魂碑



分類：慰霊碑

建立年月日：2020年3月吉日

建立場所：JAおきなわ多良間家畜市場敷地に入って右側

材質：石碑は石灰岩石碑、銘板は御影石

法量：（石碑）高さ約110cm 幅約57cm 奥行約39.5cm

（石碑の銘板）縦49.9cm 横25cm

（台座）高さ54.5cm 幅177.4cm 奥行125.5cm

（台座の銘板）縦6.8cm 横49.8cm

方角：北北西

設置者：

備考：石碑の前に献花台のようなもの（高さ28.0cm 幅50.0cm 奥行29.9cm）あり。

銘文：

（石碑の銘板）畜魂碑

（台座の銘板）令和2年3月吉日建立

水納島・多良間島記念碑等集成

番号：97

名称：村指定史跡 普天間御嶽



分類：標柱・標石

建立年月日：不明（1974年9月18日指定）

建立場所：普天間御嶽参道前の道路側

材質：コンクリート

法量：高さ 135.5cm 幅 15.0cm 奥行 15.5cm

方角：西

設置者：不明（多良間村か）

備考：

銘文：

（正面）村指定 史跡 普天間御嶽

（左面）指定 昭和四十九年九月十八日

番号：98

名称：普天間御嶽鳥居



分類：鳥居

建立年月日：1958年か

建立場所：普天間御嶽参道入口

材質：鳥居はコンクリート、表札は鉄板

法量：（全体）高さ測定不能 幅測定不能 奥行約 60cm

方角：西

設置者：

備考：鉄板の表札に「普天間御嶽」の文字がある。

銘文：なし

番号：99

名称：普天間御嶽扁額



分類：扁額

建立年月日：不明（1989年5月奉納）

建立場所：普天間御嶽本殿

材質：銅か

法量：縦 31.0cm 横 160.0cm 厚さ 2.0cm

方角：西

設置者：仲本朝英

備考：

銘文：

（正面）普天間御嶽 奉納 仲本朝英 平成元年五月

水納島・多良間島記念碑等集成

番号：100

名称：復帰記念事業 普天間港ターミナル



分類：記念碑

建立年月日：1971年8月

建立場所：普天間港手前のターミナル跡入口の左側

材質：コンクリート

法量：(碑) 高さ 100.5cm 幅 76.5cm 奥行 22.2cm
(台座) 高さ 15.0cm 幅 76.0cm 奥行 48.0cm

方角：東

設置者：多良間村

備考：

銘文：

(正面) 復帰記念事業 普天間港ターミナル

(背面) 工費七千ドル、二〇坪

一九七一年八月完成 多良間村

番号：101

名称：普天間港修築記念碑



分類：記念碑

建立年月日：1957年5月26日

建立場所：普天間港の元の棧橋から旧道に向かった右側

材質：コンクリート

法量：(本体) 高さ約 327.5cm 三角錐の一辺 94～95cm
(台座) 三角錐の一辺約 182cm

方角：南東

設置者：多良間村

備考：右面の銘文は、行数・文字数ともに不明。下線の文字は刻字されているが、それ以外は文字の輪郭のみ線刻されている。なお「が」の文字は、右側の濁点と3画目は線刻、左側の1・2画目は刻字されている。

銘文：

(正面)

普天間港修築記念碑

(左面)

為松庫商店

一九五七年五月二十六日建立

多良間村

(右面) ※下線の有無は備考のとおり。

この記念碑は一九五六年「昭和三十一年」五月株式会社松庫商店が外洋船サクソンスター号「九千ト」の解撤工事・・・

・・・・・・・・

・・・・・・・・

・・・・・・・・

建立し・・・・・・・・

水納島・多良間島記念碑等集成

番号：102

名称：村指定史跡 フタツジウガン



分類：標柱・標石

建立年月日：不明（1974年10月16日指定）

建立場所：フタツジウガンの敷地内

材質：コンクリート

法量：高さ148.5cm 横16.0cm 奥行15.7cm ※最大

方角：南西

設置者：不明（多良間村か）

備考：下部に一部破損あり。

銘文：

（正面）村指定史跡 フタツジウガン

（背面）指定 昭和四十九年

番号：103

名称：ランパート滑走路記念碑



分類：記念碑

建立年月日：1971年3月15日

建立場所：風力発電の南側（旧多良間空港）

材質：コンクリート

法量：（碑）高さ153cm 幅203.5cm 奥行41cm

（台座）高さ76cm 幅203cm 奥行152.5cm

方角：南東

設置者：村長 下地朝憲、議長 翁長常敏

備考：碑の前方に入口に階段5段あり。

銘文：

（正面）

ランパート滑走路

JAMES B. LAMPERT AIRFIELD NAMED IN HONOR OF
LIEUTENANT GENERAL JAMES B. LAMPERT. USA
HIGH COMMISSIONER OF THE RYUKYU ISLANDS

（背面）

この緊急滑走路は1970年5月1日ランパート高等弁務官が視察に来島されたとき住民の要望として空港建設について陳情したがランパート閣下は当村の離島苦に強く同情を寄せられ、1970年6月28日建設資金として11,500ドルを交付された。それにより村で3,000ドル負担し、米民事部隊の御協力と村民各位の御支援により、この滑走路が1970年12月日完成したものである。この記念碑は、ランパート閣下が示された離島住民への暖かい御厚意に対して村民として永久に感謝の念を表明するため建立した。

1971年3月15日

村長 下地朝憲

議長 翁長常敏



水納島・多良間島記念碑等集成

番号：104

名称：史跡 岩手県宮古通漂流人上陸之地



分類：標柱・標石

建立年月日：2015年3月31日

建立場所：報恩之碑から右に進んだ海岸沿い（高穴海岸）

材質：コンクリート

法量：高さ 173.7cm 幅 20.0cm 奥行 20.0cm

方角：北

設置者：多良間村教育委員会

備考：以前には昭和51年3月15日に建立された標柱が立っていた。

銘文：

（正面）史跡 岩手県宮古通漂流人上陸之地

（背面）平成二十七年三月三十一日建立

番号：105

名称：水納島・多良間島のトウブリ及びトウンバラ



水納島：マイドゥマリ°トウブリ

分類：標柱・標石

建立年月日：2022年

建立場所：水納島・多良間島のトウブリ及びトウンバラ付近 56カ所

材質：琉球石灰岩擬石

法量：高さ 150.0cm 幅 18.0cm 奥行 18.0cm

方角：個々で異なる。

設置者：多良間村

備考：トウブリは海に続く小道のことで、祭祀等の際に各家により利用するトウブリが異なっているそうである。トウンバラは大岩のことを指している。石碑の高さは、土や砂地等の埋まり具合で値が前後する。なお水納島の標柱はすべて確認することができなかったため、一部は擬石案内板の設置工事資料を参考にした。

銘文：※下記の番号は、多良間のトウブリや擬石案内板の設置工事資料によった。

<水納島>

(1) マイドゥマリ°トウブリ (2) ナカトウブリ (3) ウブイナトウブリ (4) アガリ°ピスダトウブリ (5) イシドゥマリ°トウブリ (6) シュウアルウミツトウブリ (7) ウブイトウブリ

<多良間島>

(1) ヌヌドウトウブリ (2) ナカドゥマリ°トウブリ (3) マイドゥマリ°トウブリ (4) クディトウブリ (5) クナガシャキストウブリ (6) マーシュメートウブリ (7) ナガシャキストウブリ (8) トウガリ°ラトウブリ (9) パタキズトウブリ (10) ウブドゥマリ°トウブリ (11) ナガバマトウブリ (12) アウルトウブリ (13) タカタトウブリ (14) アラダトウトウブリ (15) パイヌジトウブリ (16) パイツキスフツトウブリ (17) タカシバマトウブリ (18) ススウキバマトウブリ (19) ウブドウトウブリ (20) イリ°アカダントウブリ (21) アガリ°アカダントウブリ (22) マガリ°トウブリ (23) ナカシャラトウブリ (24) タ



水納島：シュウアルウミツトウブリ

水納島・多良間島記念碑等集成



多良間島：パイツキスフツトウブリ

カアナトウブリ (25) アガリ°タカアナトウブリ (26) シャカマ
デイトウブリ (27) ケーシャリ°トウブリ (28) ウェーダマリ°
トウブリ (29) ウドウルタマトウブリ (30) タニガートウブリ
(31) フタツジトウブリ (32) ツフェーマトウブリ (33) ウイツ
フェーマトウブリ (34) パイミツジトウブリ (35) ミツジトウ
ブリ (36) ニスミツジトウブリ (37) ブーギス°トウブリ (38)
クバマトウブリ (39) パナリトウブリ (40) キススイバナリトウ
ブリ (41) カナバマトウブリ (42) ウカバトウブリ (43) アガリ°
バルトウブリ (44) バシャクバマトウブリ (45) アパリマトウ
ブリ (46) ンガーバマトウブリ (47) ッスウ°ムニトウブリ (48)
スマヌブシュトウンバラ (49) ンガーバマトウンバラ



多良間島：ナカシャラトウブリ



多良間島：ツフェーマトウブリ



多良間島：スマヌブシュトウンバラ